



# 医と社会Ⅲ

責任者	氏名（教室）	安武 亨（先端医育センター）		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medical ethics and philosophy 3		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、診療所の体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また、ワークライフバランスについて、仕事と生活の相乗効果を高める考え方を学ぶ。

2年次までは「病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている社会・環境を洞察しうる医師となる」ことなどをめざして、主として医療従事者から見た講義・実習が行われてきた。3年次では、医療従事者でない立場の人から見た場合の、哲学・倫理・社会観・そこで提起される問題について、一緒に考えていく。我々がおかれている現代社会において、「何が正義か?」、「何に価値をおくべきか?」、「倫理観とはどうあるべきか?」といった根本的な哲学については、病気の診断・治療などの現場の対応に追われていると、社会背景を考慮しているようでも、しだいに見えなくなってゆくものである。

加えて、これまでなかなか触れる機会の少なかった歯学系分野についても学ぶ。

## 2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
5. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握することができる。
7. チーム医療の重要性を理解し、関連専門職との連携を図ることができる。
8. 患者本位の医療を実践できるように、適切な説明を行った上で主体的な同意を得るための対話能力を有し、適切な態度・思考ができる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

### 1) 実習

(1) 診療所体験実習

### 2) 講義(実習も含む)内容

(1) 患者とのコミュニケーション (2) 患者診察入門 (3) 介護・介助

(4) 多職種連携 (5) 地域医療 (6) ワークライフバランス

(7) 地域包括ケアシステム (8) 医療倫理分野 (9) 歯学系分野 (10) 薬害問題 (11)

国家行政

### 3) 体験討論・レポート作成

診療所等の体験について討論し、レポートを作成する。

### 4) リハビリテーション

## 4. 教科書・教材・参考書

適宜LACSに掲載またはプリントを配付する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

## 7. 教員名

安武 亨（先端医育センター）、田中 邦彦（先端医育センター）、江川 亜希子（先端医育センター）、北山 素（先端医育センター）、濱崎 景子（IR室兼先端医育センター）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、川尻 真也（地域医療学）、井口 茂（保健学科）、梅田 正博（歯学部）、藤原 卓（歯学部）、吉村 篤利（歯学部）、高島 英昭（リハビリテーション部）、酒井 和香（リハビリテーション部）、前田 隆浩（総合診療科）、鎌田 昭江（第一内科）、高山 隼人（地域医療支援センター）、小川 さやか（保健・医療推進センター）、本田 美和子（国立病院機構東京医療センター、医長）、手嶋 無限（アイビー薬局）、小澤 竹俊（めぐみ在宅クリニック）、貝沼 茂三郎（九州大学）、西澤 利夫（西澤国際特許事務所）、間宮 清（）、秋野 公造（参議院議員）、板井 孝壱郎（宮崎大学）、坂上 祐樹（平成医療福祉グループ）、秋葉 悦子（富山大学）、斐 英洙（ハイズ株式会社）、田口 円裕（厚生労働省医政局）

## 8. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

行動科学分野責任者：青柳 潔、安部 恵代

リハビリテーション分野責任者：高島 英昭

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	E

医と社会Ⅲ

(3年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	1	水	1	地域包括	地域包括ケアにおける医療の役割	地域包括ケア教育センター 永田 康浩	3 講
4	1	水	2~3	地域包括	リハビリテーション総論	保健学科 井口 茂	3 講
4	2	木	1	行動科学	動機づけ面接	保健・医療推進センター 小川 さやか	3 講
4	2	木	2	社会人規範	ハラスメント	先端医育センター 安武 亨	3 講
4	2	木	3	リハビリテーション	リハビリテーション概論4 健康・疾病・障害の概念と社会環境（社会環境の変動と国民の健康、疾病・障害の概念と社会）	リハビリテーション部 酒井 和香	3 講
4	6	月	1~3	地域包括	ユマニチュード	地域包括ケア教育センター 国立病院機構東京医療センター 本田美和子	4 講
4	7	火	1	地域包括	地域における薬剤師の役割	アイビー薬局 手嶋 無限	3 講
4	7	火	2	地域包括	口腔ケアに関して	周術期口腔管理センター 梅田 正博	3 講
4	8	水	1~3	地域包括	苦しむ人への関わり方を学ぶ ・相手の苦しみに気づくこと ・苦しみを抱えながら穏やかになれる援助を学ぶ ・援助的コミュニケーションを学ぶ	地域包括ケア教育センター めぐみ在宅クリニック 小澤 竹俊	3 講
4	9	木	3	リハビリテーション	リハビリテーション概論5 食事・栄養療法（食事・栄養療法の基本、栄養摂取の方法、適応、合併症）	リハビリテーション部 酒井 和香	3 講
4	14	火	1	歯科疾患	歯周病について	歯学部 吉村 篤利	3 講
4	14	火	2	地域医療学	長崎県の離島医療施策と医療支援	地域医療支援センター 高山 隼人	3 講
4	15	水	1	行動科学	行動変容・糖尿病	第一内科 鎌田 昭江	3 講
4	15	水	2	リハビリテーション	リハビリテーション概論6 リハビリテーションの概念	リハビリテーション部 高島 英昭	3 講
4	15	水	3	地域医療学	漢方について	九州大学 貝沼 茂三郎	3 講
4	16	木	1	歯科疾患	う蝕(むし歯について)	歯学部 藤原 卓	3 講
4	16	木	2	リハビリテーション	リハビリテーション概論7 リハビリテーションの技術	リハビリテーション部 酒井 和香	3 講
4	16	木	3	知的財産権	知的財産権（特許権・著作権など） について知っておこう	西澤国際特許事務所 西澤 利夫	3 講
5	18	月	3	社会と医学・医療	矯正医療について	福岡矯正管区	3 講
5	25	月	3	医療安全	薬害問題（市販薬の薬害・サリドマイド）	間宮 清	4 講
6	5	金	4~6	Early Exposure	診断所実習の事前学習	地域包括ケア教育センター	3 講
6	12	金	4~6	Early Exposure	実習	地域包括ケア教育センター	3 講
6	19	金	4~6	Early Exposure	実習	地域包括ケア教育センター	3 講
6	26	金	4~6	Early Exposure	実習の振り返り	地域包括ケア教育センター	3 講
7	13	月	3	地域医療学	地域医療	参議院議員 秋野 公造	3 講
10	2	金	1~2	医歯学共修	医療倫理の基礎と実践-DNAR・終末期を中心に-	宮崎大学 板井 孝壱郎	4 講
10	2	金	3	医歯学共修	我が国の医療・介護制度について	平成医療福祉グループ 坂上 祐樹	4 講
10	9	金	1~6	ワークライフバランス	医師にとってのワークライフバランス	メディカル ワークライフバランスセンター	4 講・チュート
10	23	金	1~2	医歯学共修	終末期医療における倫理と法 -医師の職業倫理に立脚した法の形成に向けて-	富山大学 秋葉 悦子	4 講
10	23	金	3	医歯学共修	普通の医・歯学生から抜け出するための 医療マネジメント入門	ハイズ株式会社 裏 英洙	4 講
10	23	金	4~5	医歯学共修	医療安全や医療の質管理	歯学部 藤原 卓	4 講
10	23	金	5~6	医歯学共修	技術系行政官としての業務 -国民の健康な生活の確保に貢献するために-	厚生労働省医政局 田口 円裕	4 講
11	27	金	3	行動科学	認知行動療法	保健・医療推進センター 小川 さやか	4 講

# 病理総論系

責任者	氏名（教室）	下川 功（病理学（旧第一病理学））		
	電話番号	095-819-7051	e-mail	shimo@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・水曜日 17:00～18:00（電話で所在を確認すること）		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	General Pathology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

病理学は疾病（病気）の原因や病態を探求する学問である。病理総論では、まず疾病や病的現象について総体的に把握し理解する。人間に病気を起こす原因（病因）や、それに対する生体の基本的な防御機構や反応を学び、それが組織や臓器にどのような形態的、機能的障害を与えるかを理解する。その上で、関連臓器や人体そのものに与える影響を考えていく。

## 2. 授業到達目標

病理学を正しく理解するためには、解剖学、生理学、生化学などの基礎教科の十分な知識が要求される。加えて、医学英語に習熟するために、英語の教科書を用いる。疾患名や重要な用語は、英語、日本語とも覚える。以下に挙げた教科書を原著のまま理解できる程度の能力と知識を到達目標とする。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

講義項目：講義予定表を参照のこと。

## 4. 教科書・教材・参考書

Robbins Basic Pathology 10th edition Kumar V, et al Saunders 99.95 US\$

## 5. 成績評価の方法・基準等

病理総論筆記試験を行う。出席状況、レポートの提出の有無を含め、総合的に評価する。感染症、事故等やむをえない事情により定期試験を欠席した場合、追試験を行うことはある。原則として再試験は行わない。

## 6. 事前・事後学修の内容

授業項目に関連する解剖学、組織学、生理学等の知識を再確認しておくこと。推薦された教科書だけでなく、他の病理学の教科書を読み比べること。

## 7. 教員名

下川 功（病理学）、森 亮一（病理学）、林 洋子（病理学）、朴 盛浚（病理学）、大谷 博（非常勤講師（白十字病院））

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

病理総論系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	1	水	4	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理1・下川	1講
4	1	水	5	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理1・下川	1講
4	1	水	6	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理1・下川	1講
4	2	木	4	炎症	慢性炎症、炎症の組織形態	病理1・森	1講
4	2	木	5	炎症	炎症の定義と分類、急性炎症	病理1・森	1講
4	2	木	6	炎症	化学走性因子	病理1・森	1講
4	6	月	4	組織の修復	再生、創傷治癒	病理1・森	1講
4	6	月	5	組織障害、炎症、修復	実習	病理1・下川、森、林、朴	実2
4	6	月	6	腫瘍総論	腫瘍の概念・定義・分類	病理1・森	1講
4	7	火	4	腫瘍総論	腫瘍の発育・進展、原因	病理1・森	1講
4	7	火	5	腫瘍各論	上皮性、非上皮性腫瘍	病理1・林	1講
4	7	火	6	腫瘍各論	実習	病理1・下川、森、林、朴	実2
4	8	水	4	循環障害	充血・うっ血、出血・凝固	病理1・下川	1講
4	8	水	5	循環障害	血栓・塞栓・梗塞	病理1・下川	1講
4	8	水	6	老化	老化と病態、その制御因子	病理1・下川	1講
4	14	火	4	免疫病理	自己免疫疾患、移植の病理	病理1・森	1講
4	14	火	5	環境と疾患	物理的、化学的傷害	病理1・森	1講
4	14	火	6	栄養障害	栄養障害による疾患	病理1・森	1講
4	15	水	4	老化	老化と病態、その制御因子	病理1・下川	良順会館2F
4	15	水	5	特別講義	病院病理医の現状と外科病理の魅力	白十字病院・大谷	良順会館2F
4	15	水	6	特別講義	病院病理医の現状と外科病理の魅力	白十字病院・大谷	良順会館2F
4	16	木	4	遺伝性疾患	遺伝子、染色体異常	病理1・下川	実2
4	16	木	5	小児の疾患	奇形、発達異常	病理1・下川	実2
4	16	木	6	感染症	感染症の一般病理学	病理1・下川	実2
4	20	月	4~6	試験			4講

# 基礎医学TBL

責任者	氏名（教室）	永山 雄二（原研分子）		
	電話番号	095-819-7173	e-mail	nagayama@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	7:30～8:50		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Team-based learning		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

実際の症例から問題点を抽出し、学習目標を設定し、自ら学ぶ。すでに学んだ基礎医学全般の知識を使えるものにするために知識の整理を行う。医学的知識を用いて実際の患者の抱える種々の問題を理解し、解決するために医師が取った行動、判断について批判的に学ぶ。必要な情報・知識を収集する能力を高め、実践での知識の応用力を養う。同時に病態の理解を具体例の検討をすることで理解を深め、解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識と用語の復習と再確認を必要に応じて行う。

## 2. 授業到達目標

実際の症例から問題点を抽出できる。学習目標を設定し、自ら学ぶことができる。解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識の応用できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

実際の患者のシナリオを入院まで、入院時、入院後と時系列にて提示し、それぞれを読み解く作業をグループワークとして行う。学習課題については自己学習し、グループ内で情報を共有し、議論を深める。授業で自らの考えを発表し、他のグループと意見交換を行う。議論に積極的に参加し、チームワーク医療における個人の役割を理解する。

## 4. 教科書・教材・参考書

ハワイ大学式PBLマニュアル 黒川 清 監修 羊土社 3,999円

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、セルフポートフォリオ、課題レポートの総合判断で評価する。レポートは基準に満たない場合、再提出を求めることがある。

## 6. 事前・事後学修の内容

配布するシナリオの内容について、次週までに学習・理解・調査してくること。

## 7. 教員名

（感染分子解析学）、永山 雄二（原研分子）、佐藤 克也（保健学科）、田中 邦彦（先端医育センター）、池田 裕明（腫瘍医学）、田口 謙（感染分子解析学）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	F

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	3	金	4	第1クール	オリエンテーション	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	3	金	5	第1クール	デモンストレーション	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	3	金	6	第1クール	デモンストレーション	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	10	金	4	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	10	金	5	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	10	金	6	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	17	金	4	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	17	金	5	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	17	金	6	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	24	金	4	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	24	金	5	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
4	24	金	6	第1クール	症例1提示、グループ学習	田中、佐藤、田口、池田、永山	実1
5	1	金	4	第2クール	症例2シナリオ1提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	1	金	5	第2クール	症例2シナリオ1提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	1	金	6	第2クール	症例2シナリオ1提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	8	金	4	第2クール	症例2シナリオ2提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	8	金	5	第2クール	症例2シナリオ2提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	8	金	6	第2クール	症例2シナリオ2提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	15	金	4	第2クール	症例2シナリオ3提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	15	金	5	第2クール	症例2シナリオ3提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	15	金	6	第2クール	症例2シナリオ3提示、グループ学習	永山、池田、田口、田中、佐藤	実1
5	22	金	4	第2クール	症例2総括	永山、池田、田口、田中、佐藤	ポンペ会館
5	22	金	5	第2クール	症例2総括	永山、池田、田口、田中、佐藤	ポンペ会館
5	22	金	6	第2クール	症例2総括	永山、池田、田口、田中、佐藤	ポンペ会館

# 薬理系

責任者	氏名 (教室)	有賀 純 (医科薬理学)		
	電話番号	095-819-7043	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00~18:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical Pharmacology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

## 2. 授業到達目標

生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。  
薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。  
適切に取り扱いのもとに動物実験を行い、結果を評価することができる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。一部項目については実習を課す。

## 4. 教科書・教材・参考書

薬がみえる (vol. 1-3) 医療情報科学研究所 メディックメディア 3,600円/vol  
NEW薬理学 (第7版) 編者: 田中千賀子、加藤隆一、成宮周 南江堂 8,800円  
イラストレイテッド薬理学 (原書6版) 編者: R. A. Harvey 監訳: 柳澤輝行、丸山敬 7,800円  
ハーバード大学講義テキスト: 臨床薬理学 (原書3版)  
編者: D. E. Golan 監訳: 渡邊 裕司 丸善 14,580円  
ラング・デール 薬理学 (原書8版) 編者: H. P. Rang他 監訳: 渡邊 直樹 丸善 9,500円  
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (13th Ed)  
編者: L. L. Brunton McGraw-Hill 24,120円

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。薬理学実習は、薬理学筆答試験受験のために必修である。実習を行い、実習レポートをすべて提出し、受理された者のみが、薬理学筆答試験を受験する資格を有する。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。  
実習前には、配布される実習テキストを読んで予習しておくこと。

## 7. 教員名

有賀 純 (医科薬理学)、中川 慎介 (医科薬理学)、畑山 実 (医科薬理学)、松永 隼人 (医科薬理学)

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	S

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	3	金	1	薬理学総論1	薬理学への導入・薬力学	薬理・有賀	1講
4	3	金	2	薬理学総論2	薬物受容体と細胞内情報伝達系	薬理・有賀	1講
4	10	金	1	生理活性物質1	カテコールアミン	薬理・有賀	2講
4	10	金	2	末梢神経作用薬1	アドレナリン作用薬	薬理・有賀	2講
4	17	金	1	末梢神経作用薬2	抗アドレナリン薬	薬理・有賀	1講
4	17	金	2	生理活性物質2	アセチルコリン	薬理・有賀	1講
4	24	金	1	末梢神経作用薬3	コリン薬・抗コリン薬	薬理・有賀	2講
4	24	金	2	生理活性物質3	ペプチド	薬理・藤田	2講
5	1	金	1	生理活性物質4	セロトニン・ヒスタミン	薬理・松永	2講
5	1	金	2	生理活性物質5	アミノ酸	薬理・畑山	2講
5	8	金	1	末梢神経作用薬4	自律神経作用薬・神経筋作用薬	薬理・藤田	3講
5	8	金	2	末梢神経作用薬5	局所麻酔薬	薬理・藤田	3講
5	15	金	1	生理活性物質6	エイコサノイド・サイトカイン	薬理・藤田	3講
5	15	金	2	炎症免疫薬理学1	鎮痛薬・解熱薬	薬理・藤田	3講
6	8	月	4	中間テスト		薬理学教員	4講
7	3	金	1	炎症免疫薬理学2	抗炎症薬・副腎皮質ステロイド	薬理・藤田	2講
7	3	金	2	薬理学総論5	臨床試験・実験動物の取り扱い	薬理・有賀	2講
7	3	金	4	(薬理学実習1)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	3	金	5				実1・実2
7	3	金	6				実1・実2
7	10	金	1	薬理学総論3	薬物代謝・薬物相互作用	薬理・有賀	1講
7	10	金	2	感染症治療薬1	抗菌薬	薬理・有賀	1講
7	10	金	4	(薬理学実習2)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	10	金	5				実1・実2
7	10	金	6				実1・実2
7	16	木	1	感染症治療薬2	抗真菌薬	薬理・有賀	2講
7	16	木	2	感染症治療薬3	抗ウイルス薬	薬理・有賀	2講
7	16	木	4	(薬理学実習3)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	16	木	5				実1・実2
7	16	木	6				実1・実2
7	17	金	1	腫瘍薬理学1	抗腫瘍薬	薬理・畑山	1講
7	17	金	2	腫瘍薬理学2	抗腫瘍性分子標的薬	薬理・畑山	1講
7	17	金	4	(薬理学実習4)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	17	金	5				実1・実2
7	17	金	6				実1・実2
7	27	月	1~3	試験			4講

# 血液・リンパ系

責任者	氏名（教室）	宮崎 泰司（原研内科（血液内科学））		
	電話番号	095-819-7109	e-mail	y-miyaza@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 17:00～17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Hematopoietic and lymphoid system		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

骨髄とリンパ節の構造、そこで産生される造血細胞（赤血球、白血球[顆粒球・リンパ球]、血小板）の形態、機能、産生機序、および止血機構を理解する。これらの基本的理解に立って、各血液疾患、リンパ系疾患、止血・線溶機構異常による疾患の病因と病態、臨床事項について理解する。臨床実習において実際に血液疾患を抱えた患者の病態を理解し、正確な診断するために必須の知識である。

## 2. 授業到達目標

正常血球の認識に基づき血液細胞の産生や機能，凝固止血機構を説明できる。主要血液疾患の病因と病態、臨床事項（症状、所見、診断と治療）を説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

- ・血液の構成成分、骨髄と血球産生機序を学習する。
- ・血球形態理解のために、正常末梢血および正常骨髄標本を顕微鏡を用いて観察し、血球をスケッチする実習を行う。
- ・赤血球の異常、造血幹細胞異常、顆粒球の異常、リンパ球および免疫細胞の異常、止血機構と出血性素因、小児の血液疾患、血液疾患の治療の各項目について講義を行う。
- ・7～8人ずつの小グループに分かれ、実際の症例を提示しながらチーム基盤型学習（TBL）を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

LACSにあらかじめ資料を提示する。各担当教官より必要に応じて資料が配布される。

講義録 血液・造血器疾患学 小澤敬也 他 メジカルビュー社 5,500円  
 カラーテキスト血液病学（参考書） 木崎 昌弘 他 中外医学社 26,000円  
 三輪 血液病学（参考書） 浅野茂隆 他 文光堂 45,000円  
 血液専門医テキスト（参考書） 日本血液学会編集 南江堂 15,000円  
 臨床に直結する血栓止血学 朝倉 英策 他 中外医学社 7,600円

## 5. 成績評価の方法・基準等

毎回、学生証によるカード出席の確認を行う。実習ではレポートを提出する。出席率2/3以上の者は定期試験の受験資格を有する。内科・小児血液についての定期試験と実習レポートをあわせて評価する。合計60点以上を合格とする。  
 また、本論、病理、薬理の各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSの資料にて予習することが望ましい。

## 7. 教員名

宮崎 泰司（原研内科）、波多 智子（原研内科）、今泉 芳孝（原研内科）、澤山 靖（原研内科）、安東 恒史（原研内科）、佐藤 信也（原研内科）、舩越 康智（小児科）、新野 大介（病理学）、中川 慎介（薬理）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

血液・リンパ系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	21	火	5	血液形態顕微鏡実習	正常末梢血液細胞	原研内科、宮崎 泰司	実2
4	21	火	6	血液形態顕微鏡実習	正常骨髓細胞	原研内科、宮崎 泰司	実2
4	23	木	4	血液学総論	造血総論	原研内科、波多 智子	3講
4	23	木	5	赤血球疾患(1)	赤血球総論・貧血総論	原研内科、安東 恒史	3講
4	23	木	6	赤血球疾患(2)	鉄欠乏性貧血・二次性貧血	原研内科、安東 恒史	3講
4	27	月	1	赤血球疾患(3)	巨赤芽球性貧血・溶血性貧血	原研内科、安東 恒史	3講
4	27	月	2	赤血球疾患(4)	再生不良性貧血・PNH	原研内科、安東 恒史	3講
4	28	火	5	白血球疾患(1)	白血球総論	原研内科、波多 智子	3講
4	28	火	6	白血球疾患(2)	白血球系疾患	原研内科、波多 智子	3講
4	30	木	4	白血球疾患(3)	急性白血病	原研内科、波多 智子	3講
4	30	木	5	白血球疾患(4)	慢性骨髄性白血病、骨髄増殖腫瘍	原研内科、波多 智子	3講
4	30	木	6	血液疾患の治療	造血幹細胞移植	原研内科、澤山 靖	3講
5	7	木	4	出血性・血栓性疾患(1)	止血機構	原研内科、佐藤 信也	3講
5	7	木	5	出血性・血栓性疾患(2)	血小板異常・凝固異常	原研内科、佐藤 信也	3講
5	7	木	6	出血性・血栓性疾患(3)	DIC・血栓性疾患	原研内科、佐藤 信也	3講
5	11	月	1	リンパ系疾患(1)	リンパ系総論	原研内科、今泉 芳孝	3講
5	11	月	2	リンパ系疾患(2)	反応性リンパ系疾患・脾疾患	原研内科、今泉 芳孝	3講
5	14	木	4	リンパ系疾患(3)	悪性リンパ腫	原研内科、今泉 芳孝	3講
5	14	木	5	リンパ系疾患(4)	慢性リンパ性白血病、成人T細胞白血病	原研内科、今泉 芳孝	3講
5	14	木	6	リンパ系疾患(5)	血漿蛋白質の異常	原研内科、今泉 芳孝	3講
5	18	月	1	小児血液(1)	小児貧血(溶血性貧血、Fanconi貧血など)	小児科、船越 康智	3講
5	18	月	2	小児血液(2)	好中球機能と先天異常、出血性素因	小児科、船越 康智	3講
5	21	木	4	病理	血液・リンパ系・腫瘍	病理学、新野 大介	3講
5	21	木	5	病理	血液・リンパ系・腫瘍	病理学、新野 大介	3講
5	21	木	6	病理	血液・リンパ系・腫瘍	病理学、新野 大介	3講
5	25	月	1~2	TBL	リンパ系疾患	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	26	火	5	小児血液(3)	悪性新生物(小児白血病など)	小児科、船越 康智	3講
5	26	火	6	薬理	抗凝固・抗血小板薬	薬理、中川 慎介	3講
5	29	金	1~2	TBL	血球減少症	原研内科、波多 智子	4講
5	29	金	4	病理	血液・リンパ系・非腫瘍	病理学、新野 大介	3講
5	29	金	5	病理	血液・リンパ系・非腫瘍	病理学、新野 大介	3講
5	29	金	6	病理	血液・リンパ系・非腫瘍	病理学、新野 大介	3講
6	3	水	4~6	試験			4講

# 循環器系

責任者	氏名 (教室)	前村 浩二 (循環器内科学)		
	電話番号	095-819-7288	e-mail	maemura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	4.5
科目英語名	Cardiovascular Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

本講は循環器疾患全般の概説を、主に診断・検査・治療といった臨床的側面から行う。各学生は自ら主体的に学習するアクティブラーニングの精神をもって授業に臨む必要があり、本講は学生が行うアクティブラーニングでの不足を補うための授業と位置づけられる。放射線、病理、薬理における循環器関連分野の授業も並行して行われるため、より多面的に多角的に循環器疾患の理解が進むことを期待する。

## 2. 授業到達目標

心電図、心エコーなどの検査法を理解するとともに、循環器疾患の病因と病態を説明でき、診断、治療についても系統的かつ効率よく理解できるようにすることを目標とする。単に知識だけの習得にとどまらず、循環器疾患特有の即座に対応せねばならない病態であるかなどの判断ができるようにする。また、倫理観を踏まえた上で、患者さんに対して問診、身体診察および説明ができるようにする。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義内容は心臓血管系の発生、形態および機能、循環器検査法、循環器診断学、心不全、先天性心疾患、心臓弁膜症、心筋症、心内膜疾患、心膜疾患、心臓腫瘍、循環器感染症、虚血性心疾患、肺循環障害、動脈硬化、大動脈疾患、中・小動脈疾患、静脈疾患、不整脈、高血圧、低血圧とする。

近年の循環器疾患の進歩は目覚ましく、従来のように心行動態を中心とした理解のみでは不十分である。講義内容はその領域の専門家に重要事項がもれないようにお願いし、しかも簡潔に要領よく講義して疾患および病態の本質が正確に理解できるように努める。また、講義内容があまり専門的にならず基本的事項を十分に理解できるようにすることを原則とする。

## 4. 教科書・教材・参考書

内科学 (第11版) 矢崎 義雄 監修 朝倉書店 24,800円+税

新臨床内科学 (第9版) 高久 史磨 他監修 医学書院 22,000円+税

循環器内科学 水野 杏一 他編 丸善出版 4,900円+税

HARRISON'S PRINCIPLES OF INTERNAL MEDICINE, 20th Edition Longo, et.al 南江堂 30,680円+税

Braunwald's Heart Disease: Textbook of Cardiovascular Medicine, 11th Edition Mann et.al 南江堂 39,190円+税

標準小児科学 第8版 内山 聖 監修 医学書院 8,800円+税

周生期循環異常 中澤 誠 編 メジカルビュー社 5,500円+税

新 目で見る循環器病シリーズ13-先天性心疾患- 中澤 誠 編 メジカルビュー社 9,500円+税

## 5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に試験を施行して評価する。試験100%であるが、国家試験形式では評価できない修得度は記述式問題で評価する。本論(循環器内科、小児科、心臓血管外科)、放射線、病理、薬理の各分野を総合して評価し、60%以上を合格とする。ただし、総合点が60%以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。不合格者に対して、再試験は1回に限り施行するものとする。

## 6. 事前・事後学修の内容

循環器学教科書および診断学教科書を用いて講義の前に予め予習しておくこと。

## 7. 教員名

前村 浩二（循環器内科）、河野 浩章（循環器内科）、池田 聡司（循環器内科）、深江学芸（循環器内科）、古賀 聖士（循環器内科）、土居 寿志（循環器内科）、吉牟田 剛（循環器内科）、米倉 剛（循環器内科）、南 貴子（循環器内科）、江口 正倫（循環器内科）、荒川 修司（循環器内科）、泉田 誠也（循環器内科）、赤司 良平（循環器内科）、蓮把 朋之（小児科）、江石 清行（心臓血管外科）、松丸 一郎（心臓血管外科）、末吉英純（放射線科）、工藤 崇（アイソトープ診断治療）、有賀 純（医科薬理学）、下川 功（生命医科学講座 病理学）、森 亮一（生命医科学講座 病理学）、林 洋子（生命医科学講座 病理学）、朴 盛浚（生命医科学講座 病理学）、福岡 順也（病理学/病理診断科）、二口 充（病理学/病理診断科）、黒田 揮志夫（病理学/病理診断科）、芦澤 直人（長崎原爆病院）、山近 史郎（井上病院）、本村 秀樹（長崎医療センター）、濱脇 正好（長崎医療センター）、坂本 一郎（長崎みなとメディカルセンター）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

令和2年度 循環器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	21	火	1	循環器総論	総論・症候学	循環器内科・前村	3講
4	21	火	2	検査	心臓カテーテル検査	循環器内科・江口	3講
4	22	水	1	心膜・心内膜・腫瘍	心膜炎、感染性心内膜炎、心臓腫瘍	循環器内科・吉牟田	3講
4	22	水	2	不整脈	上室性不整脈、WPW症候群	循環器内科・土居	3講
4	22	水	3		房室ブロック、洞不全症候群	循環器内科・土居	3講
4	22	水	4	(病理) 循環病理 1	循環器・心・虚血性疾患 (講義)	1病・下川	1講
4	22	水	5	(病理) 循環病理 2	循環器・心・虚血性疾患 (講義)	1病・下川	1講
4	22	水	6	(病理) 循環病理 3	循環器・心・虚血性疾患 (実習)	1病・下川、森、林、朴	CBT室
4	23	木	1	循環器画像診断	大血管、末梢血管の画像診断	放射線科・末吉	3講
4	23	木	2	虚血性心疾患	狭心症	循環器内科・米倉	3講
4	23	木	3		心筋梗塞	循環器内科・米倉	3講
4	27	月	4	検査	心エコー図	循環器内科・南	3講
4	27	月	5	心電図	心電図の基本 (1)	循環器内科・深江	3講
4	27	月	6		心電図の基本 (2)	循環器内科・深江	3講
4	28	火	1	肺循環・静脈疾患	肺循環と静脈疾患 (1)	循環器内科・池田	3講
4	28	火	2		肺循環と静脈疾患 (2)	循環器内科・池田	3講
4	30	木	1	小児心疾患	リウマチ熱、川崎病	小児科・蓮把	3講
4	30	木	2	不整脈	心室性不整脈、心臓突然死	循環器内科・深江	3講
4	30	木	3		不整脈治療、デバイス	循環器内科・深江	3講
5	7	木	1	心不全	急性心不全	循環器内科・泉田	3講
5	7	木	2		慢性心不全	循環器内科・泉田	3講
5	11	月	4	心筋疾患	心筋症・心筋炎 (1)	非常勤(循)・芦澤	3講
5	11	月	5		心筋症・心筋炎 (2)	非常勤(循)・芦澤	3講
5	11	月	6		心筋症・心筋炎 (3)	非常勤(循)・芦澤	3講
5	12	火	1	(薬理) 循環薬理 1	降圧薬 1	薬理・有賀	1講
5	12	火	2	(薬理) 循環薬理 2	降圧薬 2	薬理・有賀	1講
5	12	火	4	循環器画像診断	心臓の画像診断	非常勤(放)・坂本	3講
5	12	火	5	先天性心疾患	非チアノーゼ群	非常勤(小)・本村	3講
5	12	火	6		チアノーゼ群	小児科・蓮把	3講
5	13	水	1		先天性心疾患の外科	非常勤(心)・濱脇	3講
5	13	水	2		成人にみられる先天性心疾患	非常勤(循)・山近	3講
5	13	水	4	(病理) 循環病理 4	循環器・心・非虚血性疾患 (講義)	1病・下川	1講
5	13	水	5	(病理) 循環病理 5	循環器・心・非虚血性疾患 (講義)	1病・下川	1講
5	13	水	6	(病理) 循環病理 6	循環器・心・非虚血性疾患 (実習)	1病・下川、森、林、朴	CBT室
5	14	木	1	虚血性心疾患	狭心症・心筋梗塞の治療 (1)	循環器内科・古賀	3講
5	14	木	2		狭心症・心筋梗塞の治療 (2)	循環器内科・古賀	3講
5	18	月	4	(放射) 血管系のIVR	大動脈や末梢血管の血管内治療について	非常勤(放)・坂本	3講
5	18	月	5	血圧異常	本態性高血圧症	循環器内科・河野	3講
5	18	月	6		二次性高血圧症、低血圧	循環器内科・河野	3講
5	19	火	1	(薬理) 循環薬理 3	虚血性心疾患治療薬	薬理・有賀	1講
5	19	火	2	(薬理) 循環薬理 4	心不全治療薬	薬理・有賀	1講
5	19	火	5	(病理) 循環病理 7	肺における血管・循環不全・血管性病変	2病・福岡	CBT室
5	19	火	6	(病理) 循環病理 8	肺における血管・循環不全・血管性病変	2病・福岡	CBT室

令和2年度 循環器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	20	水	1	虚血性心疾患	虚血性心疾患の外科	心臓血管外科・江石	3講
5	20	水	2	循環器画像診断	循環器系の核医学検査	アイソトープ診断治療・工藤	3講
5	20	水	4	(病理) 循環病理 9	循環不全とがん	2病・二口	CBT室
5	20	水	5	(病理) 循環病理 10	循環不全とがん	2病・二口	CBT室
5	20	水	6	(病理) 循環病理 11	循環不全とがん	2病・二口	CBT室
5	21	木	1	心電図	心電図判読の実際	循環器内科・荒川	3講
5	21	木	2	弁膜疾患	心エコー・手術適応	非常勤(循)・山近	3講
5	22	金	1		弁膜症(1)	循環器内科・吉牟田	3講
5	22	金	2		弁膜症(2)	循環器内科・吉牟田	3講
5	25	月	5		弁膜症の外科(1)	心臓血管外科・江石	3講
5	25	月	6		弁膜症の外科(2)	心臓血管外科・江石	3講
5	26	火	1		(薬理) 循環薬理 5	利尿薬	薬理・有賀
5	26	火	2	(薬理) 循環薬理 6	抗不整脈薬	薬理・有賀	1講
5	27	水	1	TBL	循環器系TBL	循環器内科・泉田	4講
5	27	水	2				4講
5	27	水	4	(病理) 循環病理 12	脈管・血管炎(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	27	水	5	(病理) 循環病理 13	脈管・硬化/解離/瘤(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	27	水	6	(病理) 循環病理 14	脈管・奇形/腫瘍(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	28	木	1	動脈疾患	動脈疾患	循環器内科・赤司	3講
5	28	木	2	動静脈疾患	動脈・静脈疾患の外科	心臓血管外科・松丸	3講
5	28	木	4	心電図	心電図演習	循環器内科・荒川	4講
5	28	木	5	TBL	循環器系TBL	循環器内科・荒川	4講
5	28	木	6				4講
6	1	月	4~6	試験			4講

# 呼吸器系

責任者	氏名（教室）	迎 寛（内科学第二（呼吸器内科））		
	電話番号	095-819-7271	e-mail	hmukae@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 9:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Respiratory Diseases		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

正常呼吸器系の解剖と生理、並びに画像評価の知識をもとに、各呼吸器系疾患の病態、診断、治療方法を理解する。

## 2. 授業到達目標

- (1) 正常呼吸器系の構造と機能を説明できる。(2) 各呼吸器疾患の病態について説明できる。
- (3) 各呼吸器疾患の診断について説明できる。(4) 各呼吸器疾患の治療について説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

正常呼吸器系の構造・機能を基本として各疾患の病態について学ぶ。さらに、内科、外科、放射線学的立場から疾患の症候、診断方法を理解し、疾患に応じた内科および外科的治療について学ぶ。

## 4. 教科書・教材・参考書

ガイドラインをふまえた成人市中肺炎診療の実際 河野 茂 編 医学書院 4,830円  
 レジデントのための呼吸器疾患診療マニュアル（第2版） 河野 茂、早田 宏 編 医学書院 4,700円  
 咳漱・喀痰の診療ガイドライン2019 咳漱・喀痰に関するガイドライン2019作成委員会（委員長、迎 寛）日本呼吸器学会 4,000円  
 臨床腫瘍学 日本臨床腫瘍学会 編 癌と化学療法社 25,000円  
 呼吸器外科テキスト 日本呼吸器外科学会 編 南江堂 13,000円  
 新版：胸部単純X線診断 林 邦昭、中田 肇 編 秀潤社 4,800円  
 胸部単純X線アトラス vol.1肺 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,500円  
 胸部単純X線アトラス vol.2縦隔、胸膜他 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,300円

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査を90%、アクティブラーニング(TBL) は全体の10%(5% $\times$ 2)として100点満点で評価する。正当な理由なく全授業時間の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。定期考査は授業時間に応じて各分野（内科・外科・放射線科・病理）から出題する。合計60点以上を合格とするが、各分野の得点が4割に満たない場合は不合格となる。再試験は一度のみで、その採点方法も本試験と同様とする。レポートなどによる救済措置は行わない。

## 6. 事前・事後学修の内容

予習については、LACSにより行うこと。

## 7. 教員名

迎 寛（呼吸器内科）、福島 千鶴（呼吸器内科）、尾長谷 靖（呼吸器内科）、坂本 憲徳（呼吸器内科）、宮崎 泰可（呼吸器内科）、石本 裕士（呼吸器内科）、今村 圭文（呼吸器内科）、山本 和子（呼吸器内科）、平山 達朗（呼吸器内科）、山口 博之（呼吸器内科）、城戸 貴志（呼吸器内科）、永安 武（腫瘍外科）、松本 桂太郎（腫瘍外科）、宮崎 拓郎（腫瘍外科）、土谷 智史（83961708）、泉川 公一（臨床感染症学）、芦澤 和人（臨床腫瘍学）、竹本 真之輔（呼吸器内科）、福岡 順也（病理診断科・病理部）、中島 正洋（原研病理）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	A

# 呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	4	木	1	呼吸器外科	縦隔の外科(1)	腫瘍外科・土谷 智史	3講
6	4	木	2	呼吸器外科	縦隔の外科(2)	腫瘍外科・土谷 智史	3講
6	8	月	1	呼吸器画像診断	画像診断総論(1)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
6	8	月	2	呼吸器画像診断	画像診断総論(2)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
6	10	水	1	呼吸器画像診断	画像診断各論(1)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
6	10	水	2	呼吸器画像診断	画像診断各論(2)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
6	10	水	4	病理	呼吸器・びまん性肺疾患1(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
6	10	水	5	病理	呼吸器・びまん性肺疾患2(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
6	10	水	6	病理	呼吸器・間質性肺炎(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
6	11	木	1	呼吸生理	呼吸性酸塩基平衡異常と肺による代償	呼吸器内科・尾長谷 靖	3講
6	11	木	2	アレルギー性肺疾患	気管支喘息	呼吸器内科・尾長谷 靖	3講
6	12	金	1	呼吸器外科	肺の外科(1)	腫瘍外科・永安 武	3講
6	12	金	2	呼吸器外科	肺の外科(2)	腫瘍外科・永安 武	3講
6	15	月	1	呼吸器外科	胸壁・胸膜・横隔膜の外科	腫瘍外科・宮崎 拓郎	3講
6	15	月	2	閉塞性・職業性肺疾患	COPD、塵肺など	呼吸器内科・福島 千鶴	3講
6	17	水	1	呼吸器感染症	呼吸器感染症総論	臨床感染症学・泉川 公一	3講
6	17	水	2	呼吸器病学総論	構造と疾患	呼吸器内科・迎 寛	3講
6	17	水	4	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島 正洋	1講
6	17	水	5	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島 正洋	1講
6	17	水	6	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島 正洋	1講
6	18	木	1	呼吸器腫瘍	肺癌、良性腫瘍、放射線肺臓炎	呼吸器内科・山口 博之	3講
6	18	木	2	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(2)	呼吸器内科・城戸 貴志	3講
6	19	金	1	呼吸器腫瘍	分子標的薬総論	呼吸器内科・竹本 真之輔	3講
6	19	金	2	呼吸器外科	肺移植	腫瘍外科・永安 武	3講
6	22	月	1	呼吸器外科	胸部外傷	腫瘍外科・宮崎 拓郎	3講
6	22	月	2	予備(感染症)	予備(感染症)	(富山大学教授・山本善裕)	3講
6	23	火	5	呼吸器感染症	市中肺炎、肺化膿症	呼吸器内科・迎 寛	3講
6	23	火	6	呼吸器感染症	院内肺炎、医療・介護関連肺炎	呼吸器内科・今村 圭文	3講
6	24	水	4	病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
6	24	水	5	病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
6	24	水	6	病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
6	29	月	1	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(1)	呼吸器内科・坂本 憲徳	3講
6	29	月	2	呼吸器外科	外科診断技術・周術期管理・手術様式	腫瘍外科・松本 桂太郎	3講
6	30	火	5	TBL	特発性間質性肺炎	呼吸器内科・迎 寛	3講

# 呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	30	火	6	TBL	びまん性肺疾患(3)	呼吸器内科・石本 裕士	3講
7	6	月	1	呼吸器画像診断	画像診断各論(3)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
7	6	月	2	呼吸器画像診断	画像診断各論(4)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
7	8	水	5	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島 正洋	CBT室
7	8	水	6	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島 正洋	CBT室
7	9	木	1	呼吸器感染症	結核、非結核性抗酸菌症	呼吸器内科・平山 達朗	3講
7	9	木	2	呼吸器感染症	日和見感染症	臨床感染症学・宮崎 泰可	3講
7	13	月	1	予備	予備	予備	3講
7	13	月	2	呼吸器感染症	気道感染症	呼吸器内科・山本 和子	3講
7	14	火	1	薬理			3講
7	14	火	5	TBL	好酸球性肺疾患/まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4講
7	14	火	6	TBL	まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4講
7	21	火	5	放射	画像	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
7	21	火	6	放射	画像	臨床腫瘍学・芦澤 和人	3講
7	22	水	1	予備	予備		4講
7	22	水	2	呼吸器腫瘍	胸膜と胸壁腫瘍、縦隔腫瘍	呼吸器内科・山口 博之	4講
7	22	水	5	病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
7	22	水	6	病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	病理診断科・福岡 順也	CBT室
8	6	木	1~3	試験			4講

# 感染症系

責任者	氏名 (教室)	泉川 公一 (臨床感染症学)		
	電話番号	095-819-7731	e-mail	koizumik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00~18:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Infectious Diseases		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

感染症は、あらゆる臓器に発症しうる疾病であり、原因微生物も多岐にわたる。感染症が疑われる患者にいかにかにアプローチし、的確な診断、適切な治療、さらには感染予防へと結びつけていくかを、多角的な視点から学ぶ。病原体の多様性や感染症の臨床像に対し応用力をつけ、感染予防の方法についても学ぶ。

## 2. 授業到達目標

到達目標：臨床医学の中における感染症の特徴を理解して、説明することができる。感染症の患者へのアプローチや診断、治療、予防を総合的にとらえて説明することができる。また、熱帯感染症についてその背景、特徴を説明することができる。院内感染について、その対策や制御および重要な原因微生物について説明することができる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

内科学の一部を構成する「感染症学」に相当する内容を学習する。主に一般細菌、ウイルス、真菌、寄生虫、抗酸菌感染症の診断と治療を学習する。また、院内感染の予防や感染対策も重要な問題であるため、その対策の実際を学び、実習も行う。さらにグローバル化を背景に日本でも見られるようになったマラリア、デング熱、下痢症、新興感染症についても学ぶ。おのこの病原体の基礎知識、宿主-病原体関係について理解し感染症の病態生理を根本的に理解する。

## 4. 教科書・教材・参考書

以下のものを参考書として推薦する。

- ・Mandel GL, Bennett JE, Dolin R. 8th ed 「Principles and Practice of Infectious Diseases」
- ・Mayhall CG. 4th ed 「Hospital Epidemiology and Infection Control」
- ・Richard A. Harvey 山口恵三/松本哲哉 監訳 「イラストレイテッド微生物学 第2版」丸善株式会社
- ・河野 茂 編 「感染症のとらえ方」 文光堂
- ・柳原 克紀 編 「感染症の診断って、こんなちょっとしたことで差がついちゃうんですね。」 南江堂

## 5. 成績評価の方法・基準等

期末試験100%。授業内容を中心に出题する試験により行う。60%未満の得点は不合格とする。

本論、病理の各分野を総合し、60%以上を合格とする。

ただし、総合点が60%以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

すでに2年次に履修した感染系の各項目を復習しておくこと。

## 7. 教員名

泉川 公一（臨床感染症学）、田中 健之（感染制御教育センター）、宮崎 泰可（臨床感染症学）、高園 貴弘（臨床感染症学）、田代 将人（臨床感染症学）、山本 和子（感染制御教育センター）、藤田 あゆみ（感染制御教育センター）、今村 圭文（呼吸器内科）、平山 達郎（呼吸器内科）、森内 浩幸（小児科）、柳原 克紀（病態解析・診断学）、有吉 紅也（熱研内科）、森本 浩之輔（熱研内科）、高橋 健介（熱研内科）、松井 昂介（熱研内科）、山梨 啓友（総合診療科）、泉田 真生（総合診療科）、森田 公一（熱帯医学研究所）、濱野 真二郎（熱帯医学研究所）、大沢 一貴（比較動物医学）、山本 善裕（富山大学）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	A

感染症系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	5	金	1	世界と日本における感染症の現状	致死率の高い流行性感染症の現状、耐性菌の拡大とその対策など、感染症を取り巻く現状と課題について、感染症系でマスターすべきことを確認する。	臨床感染症学・泉川	3講
6	5	金	2	感染症診断の基本的アプローチ	感染症の古典的な鏡顕や培養、抗血清による診断法から、近年開発された尿中抗原検査や遺伝子診断まで適応や意義を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	3講
6	8	月	5	現代医療における易感性宿主と日和見感染症	抗がん剤治療や臓器移植後の免疫不全と併発する感染症の病態生理を講義する。	臨床感染症学・泉川	4講
6	8	月	6	予備			4講
6	9	火	5	感染症の予防(1): 能動免疫	ワクチン接種による感染症の予防法についての総論と、代表的なワクチンの各論について学ぶ。	小児科・森内	3講
6	9	火	6	感染症の予防(2): 受動免疫, その他	免疫グロブリン療法による受動免疫やその他の手段による感染症の予防法について学ぶ。	小児科・森内	3講
6	15	月	4	感染症の救急診療	感染症領域における救急診療のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	感染制御教育センター・田中健之	3講
6	15	月	5	不明熱とsepsis	不明熱の3大原因の一つが感染症である。不明熱をみた場合に鑑別すべき感染症と診断法について学ぶ。	臨床感染症学・宮崎	3講
6	15	月	6	感染症の画像診断	感染症領域における画像診断のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	感染制御教育センター・山本和子	3講
6	16	火	5	ウイルス感染症の診断	ウイルス感染症の診断法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの診断法の各論を概説する。	小児科・森内	3講
6	16	火	6	ウイルス感染症の治療	ウイルス感染症の治療法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの治療法の各論を概説する。	小児科・森内	3講
6	22	月	4	グローバルヘルスと感染症	熱帯感染症を概説するとともに、国境を越えた課題として感染症を地球規模でとらえる視野を持たせる。	熱研内科・有吉	3講
6	22	月	5	耐性菌による感染症	現在、各種領域で問題となっている耐性菌を紹介するとともに、耐性菌による感染症の発症に至る機序や治療について学ぶ。	臨床感染症学・田代	3講
6	22	月	6	難治性感染症	問題となる難治性感染症の原因として耐性菌やパイオフィルム感染症などがあるが、具体的な疾患について学ぶ。	第二内科・平山	3講
6	25	木	1	深在性真菌症の診断と治療	深在性真菌症の主要な病原菌、重要な基礎疾患、エビデンスに基づく抗真菌薬療法について学ぶ。	臨床感染症学・高園	4講
6	25	木	2	抗菌薬の選択法と適正使用	最新の一般抗菌薬の種類、各系統のスペクトルや副作用の特徴、典型的な適応症について学ぶ。	病態解析・診断学・柳原	4講
6	29	月	4	院内感染とその対策 I	接触感染、飛沫感染、空気感染の違いと、院内感染対策の上で重要な病原菌の病態や対処方法を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	4講
6	29	月	5	院内感染とその対策 II	院内感染を防止するための理論と対策を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	4講
6	29	月	6	院内感染対策実習	院内感染防止の具体的な手順について実習する。	臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター 田中・山本・藤田	4講
7	2	木	1	熱帯でよくみる細菌感染症の診断	主に熱帯地でみられる、細菌性感染症について、病態、診断、治療について解説する。	熱研内科・有吉	3講
7	2	木	2	熱帯地方のウイルス感染症の診断	熱帯地域で重要な日本脳炎、デング出血熱、西ナイル熱などの蚊媒性ウイルス感染の診断、治療、予防について講義する。	熱研・森田	3講
7	6	月	4	寄生虫感染症の診断と治療	熱帯地でみられる寄生虫感染症の疫学・病態・診断・治療・予防について講義する。	熱研・濱野	3講
7	6	月	5	HIV/AIDSの疫学, 自然経過, 予防	国内外のエイズ流行の動向について概説し、エイズの疫学、自然経過、予防対策の本質について学ぶ。	熱研内科・有吉	3講
7	6	月	6	HIV/AIDSの臨床, 治療	HIV感染者・エイズ患者に対する臨床的アプローチの仕方、日和見感染症の予防・治療、最新の抗HIV薬併用療法について学ぶ。	熱研内科・有吉	3講

感染症系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	7	火	5	マラリアの診断と治療および予防	熱帯地でみられるマラリアを中心とする原虫疾患の疫学・病態・臨床・診断方法・治療・予防について体系的に説明する。	熱研内科・高橋	3講
7	7	火	6	性行為感染と母子感染	ヒトの再生に関わる性行為、妊娠、分娩、授乳の営みを介して起こる感染症の総論と、代表的疾患の各論を学ぶ。	小児科・森内	3講
7	8	水	1	抗酸菌感染症の診断と治療	結核症と非結核性抗酸菌症の疫学、病態と鑑別診断、さらに診断方法と標準的な治療法に関して学習する。	富山大学・山本	3講
7	8	水	2	TBL準備		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	3講
7	13	月	4	TBL		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	4講
7	13	月	5	TBL		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	4講
7	13	月	6	TBL		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	4講
7	15	水	1	予備			4講
7	15	水	2	TBL準備		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	4講
7	20	月	4	TBL		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	4講
7	20	月	5	TBL		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	4講
7	20	月	6	TBL		臨床感染症学・熱研内科・第二内科・感染制御教育センター	4講
7	21	火	1	インフルエンザの臨床、治療	インフルエンザウイルス感染に関連する様々な臨床像について説明する。	第二内科・今村	3講
7	21	火	2	人獣共通感染症	人獣共通（動物由来）感染症について、微生物の概説、伝播方式、予防策などトピックを交えながら講義する。	比較動物医学・大沢	3講
7	22	水	4	(感染病理)			1講/CBT室
7	31	金	4～6	試験			4講

# 腎泌尿器系

責任者	氏名（教室）	酒井 英樹（腎泌尿器病態学（泌尿器科学））		
	電話番号	095-819-7340	e-mail	hsakai@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 16:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Nephro-urology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象にした腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解する。

## 2. 授業到達目標

- 1) 腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる—特に腎の生理と排尿の生理を理解することが重要である。
- 2) 腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。
- 3) 腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。
- 4) 腎・泌尿器科の病理検査を理解し、治療法選択や予後との関連を説明できる。
- 5) 各疾患の治療法を概説できる。また、小児と成人の差違、内科的あるいは外科的治療の差違について説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

体液の恒常性維持における腎の機能について学び、腎・泌尿器系疾患の病態、症候、検査、診断および治療について系統的に講義する。その検査法には、放射線学的、病理学的な方法も含まれる。この系で学ぶ主要な疾患は、腎不全、糸球体疾患、ネフローゼ症候群、尿細管間質病変、高血圧・腎血管病変、全身性疾患に合併した腎病変、小児の腎疾患、外科的処置が必要な腎・尿路系疾患（腫瘍、結石、外傷）、排尿障害、尿路感染症である。

## 4. 教科書・教材・参考書

エッセンシャル腎臓内科学 富野 康日己 編 医歯薬出版 5,000円  
 ダイナミックメディスン6巻 下条 文武・斉藤 康 西村書店 3,800円  
 講義録 泌尿器科学 荒井 陽一 小川 修 編 メジカルビュー 6,000円  
 Smith's General Urology Emil Tanagho Lange 8,000円  
 病気が見える腎・泌尿器 医療情報科学研究所 3,564円  
 Renal disease:classification and atlas of glomerular disease. Churg/Bernstain/ Glass  
 ock IGAKU/SHOIN 23,900円  
 小児腎臓病学 改訂第2版 日本小児腎臓病学会編 診断と治療社 9,720円  
 図解腎臓内科学テキスト 富野 康日己 編 中外医学社 7,600円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験を行う。各分野の配点は、小児科10点、腎臓内科40点、泌尿器科40点とし、放射線・病理10点とし、合計60点以上を合格とする。  
 また、本論、放射線、病理の各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。  
 再試験は1回実施する。

## 6. 事前・事後学修の内容

腎・尿路系の解剖、生理、病理学について復習しておくこと。

## 7. 教員名

酒井 英樹（泌尿器科）、宮田 康好（泌尿器科）、大庭 康司郎（泌尿器科）、木原 敏晴（泌尿器科）、松尾 朋博（泌尿器科）、望月 保志（血液浄化）、西野 友哉（腎臓内科）、牟田久美子（腎臓内科）、鳥越 健太（腎臓内科）、太田 祐樹（腎臓内科）、山下 鮎子（腎臓内科）、白川 利彦（小児科）、二口 充（病理診断科）、石山 彩乃（放射線科）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

## 腎泌尿器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	4	木	4	泌尿器科	腎・泌尿器系 イントロダクション	泌尿器科・酒井英樹	3講
6	4	木	5	腎臓内科	臨床総論；腎臓の構造・機能、腎疾患の主要症候	腎臓内科・太田祐樹	3講
6	4	木	6	腎臓内科	腎疾患の検査（検尿異常、腎機能検査）	腎臓内科・太田祐樹	3講
6	9	火	1	腎臓内科	糸球体疾患総論	腎臓内科・鳥越健太	3講
6	9	火	2	腎臓内科	糸球体疾患各論	腎臓内科・鳥越健太	3講
6	11	木	4	腎臓内科	糸球体疾患：診断へのアプローチ	腎臓内科・牟田久美子	3講
6	11	木	5	腎臓内科	二次性腎障害	腎臓内科・牟田久美子	3講
6	11	木	6	腎臓内科	尿細管間質性疾患、電解質異常（水・Na異常）	腎臓内科・太田祐樹	3講
6	16	火	1	腎臓内科	電解質異常（K異常、酸塩基異常）	腎臓内科・太田祐樹	3講
6	16	火	2	腎臓内科	輸液の基本	腎臓内科・太田祐樹	3講
6	18	木	4	腎臓内科	腎病理	腎臓内科・牟田久美子	3講
6	18	木	5	腎臓内科	慢性腎不全、CKD、CKD-MBD（Ca・P代謝）	腎臓内科・山下鮎子	3講
6	18	木	6	腎臓内科	腎代替療法、アフェレーシス	腎臓内科・山下鮎子	3講
6	23	火	1	腎臓内科	急性腎不全、AKI	腎臓内科・山下鮎子	3講
6	23	火	2	腎臓内科	総括	腎臓内科・山下鮎子	3講
6	24	水	1	小児科	小児の腎泌尿器疾患	小児科・白川利彦	3講
6	24	水	2	小児科	小児の腎泌尿器疾患	小児科・白川利彦	3講
6	25	木	4	小児科	小児の腎泌尿器疾患	小児科・白川利彦	3講
6	25	木	5	泌尿器科	泌尿器科学総論：解剖・生理	泌尿器科・宮田康好	3講
6	25	木	6	泌尿器科	泌尿器科学総論：症候・検査法	泌尿器科・宮田康好	3講
6	26	金	1	泌尿器科	性機能障害	泌尿器科・宮田康好	3講
6	26	金	2	泌尿器科	尿路性器外傷	泌尿器科・宮田康好	3講
6	30	火	1	泌尿器科	尿路癌（疫学、診断、治療）	泌尿器科・宮田康好	3講
6	30	火	2	泌尿器科	小児泌尿器疾患	泌尿器科・木原敏晴	3講
7	1	水	1	泌尿器科	腎腫瘍	血液浄化・望月保志	3講
7	1	水	2	泌尿器科	腎血管性病変	血液浄化・望月保志	3講
7	1	水	4	病理	泌尿器病理 イントロダクション	病理診断科・二口 充	CBT室
7	1	水	5	病理	泌尿器病理 尿路疾患	病理診断科・二口 充	CBT室
7	1	水	6	病理	泌尿器病理 腎疾患	病理診断科・二口 充	CBT室
7	2	木	4	泌尿器科	尿路癌（課題討論）	泌尿器科・宮田康好	3講
7	2	木	5	泌尿器科	排尿機能障害	泌尿器科・宮田康好	3講
7	2	木	6	泌尿器科	尿路結石	久留米大・井川掌	3講
7	7	火	1	TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・鳥越健太	4講
7	7	火	2	TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・鳥越健太	4講
7	9	木	4	泌尿器科	腎腫瘍（課題検討）	泌尿器科、大庭康司郎	4講
7	9	木	5	TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・牟田久美子	4講
7	9	木	6	TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科・松尾朋博	4講
7	14	火	2	放射	泌尿器系の画像診断	放射線科・石山彩乃	3講
7	15	水	4	泌尿器科	炎症性疾患	泌尿器科・酒井英樹	3講
7	15	水	5	病理	泌尿器病理 分子病理・男性生殖器疾患	病理診断科・二口 充	CBT室
7	15	水	6	病理	泌尿器病理 男性生殖器疾患	病理診断科・二口 充	CBT室
7	20	月	1	TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科・大庭康司郎	4講
7	20	月	2	TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科・大庭康司郎	4講
7	28	火	4~6	試験			4講

# 内分泌・代謝・栄養系

責任者	氏名（教室）	川上 純（内科学第一）		
	電話番号	095-819-7260	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	8:00～9:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Endocrinology and Metabolism		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

授業概要及び位置づけ；内分泌・代謝・乳腺疾患の病因、病態生理、症状・所見、検査、画像、治療、薬理作用について理解する。

## 2. 授業到達目標

代表的な内分泌・代謝・乳腺疾患について病因、病態生理、症状・所見、検査、画像、治療、薬理作用について説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

内分泌学の基本であるホルモンは特異的な内分泌腺から分泌され、血流を介して各ホルモンに特異的受容体を有する標的細胞に作用する生理活性物質と定義されています。講義ではまず、総論としてすべてのホルモンに共通した概念、作用機序、分泌調節機序を理解してもらい、次に各論として代表的ホルモンを分泌する内分泌腺（視床下部下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺）別に、個々のホルモンの作用、分泌調節、さらに代表的な疾患（先端巨大症、尿崩症、バセドウ病、クッシング症候群など）および最近のトピックについて話を進める予定です。

代謝・栄養系として、栄養学ならびに糖代謝について基本的な概念を習得し、その上で、糖尿病、低血糖、高脂血症、肥満、痛風などの疾患を講義します。糖尿病はインスリン分泌および作用の不足の結果、高血糖を生じますが、慢性的な高血糖が持続しますと糖尿病に特有な腎症・網膜症・神経障害などの合併症を生じます。最初に、糖尿病の分類、診断、糖尿病合併症および糖尿病の治療について講義します。また、トピックとしていくつかの遺伝子異常による糖尿病や、新しい糖尿病治療薬などについてふれます。

高脂血症とは血中脂質（コレステロール、中性脂肪）が増加した状態であり、動脈硬化性疾患（心筋梗塞、狭心症）の主な危険因子です。まず最初にリポ蛋白代謝について説明し、次に高脂血症の分類、動脈硬化の発生機序、メタボリック症候群について講義します。

外科分野として、乳癌や乳腺良性疾患および甲状腺癌、バセドウ病、副甲状腺機能亢進症などの外科治療を中心に基礎的な知識や最新のトピックスについて触れていきます。また乳癌に関しては分子標的治療薬を含めた薬物療法についても講義します。

病理学的分野では、内分泌疾患を概説し、組織学的変化と病態との関係を説明し、病理診断学についても講義します。

放射線分野として、最初に、代表的な内分泌腺として、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の、CTおよびMRIにおける正常画像解剖を説明する予定です。さらに、下垂体腺腫、副甲状腺機能亢進症、骨粗鬆症、くる病/骨軟化症、副腎腺腫（クッシング症候群、原発性アルドステロン症）、褐色細胞腫、膵内分泌腫瘍について、典型的な画像所見を概説します。最後に、多発内分泌腫瘍症（Multiple endocrine neoplasia : MEN）についてふれます。

#### 4. 教科書・教材・参考書

最新 内分泌代謝学 中尾 一和 編 診断と治療社 14, 000円

CECIL TEXTBOOK OF MEDICINE (25th ed) Lee Goldman, Andrew I. Schafer 他編 W.B.Saunders company

Harrison's PRINCIPLES of INTERNAL MEDICINE (19th ed) Fauci, Kasper, Longo, Braunwald 他編 Mc Graw-Hill

Williams textbook of Endocrinology ( 14th ed.) Melmed, Polnsky, Larsen 他編 Elsevier

標準外科学（第14版） 監修：畠山 勝義 医学書院

#### 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査 100%

本論、放射線、病理、薬理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

#### 6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考図書にて予習しておくことが望ましい。

#### 7. 教員名

阿比留教生（第一内科）、鎌田昭江（糖尿病診療支援センター）、堀江一郎（第一内科）、原口愛（第一内科）、夏田昌子（第一内科）、伊藤 文子（第一内科）、重野里代子（第一内科）、古林正和（保健医療推進センター）、矢野洋（腫瘍外科）、森田道（移植消化器外科）、高島美和（栄養管理室）、山崎浩則（佐世保市総合医療センター）、赤澤 諭（原研国際）、尹漢勝（病理診断科・病理部）、二口 充（病理診断科・病理部）、有賀純（医科薬理）、藤田和歌子（医科薬理）、中島正洋（原研病理）、大木望（放射線科）、A n d r e y B y c h k o v（亀田総合病院）

#### 8. 備考

特になし

#### 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	2	月	1	内分泌総論	ホルモン作用機序・疾患総論	第一内科 堀江	4 講
11	2	月	2	視床下部・下垂体	下垂体前葉疾患	第一内科 堀江	4 講
11	2	月	3	視床下部・下垂体	視床下部・下垂体後葉疾患	第一内科 堀江	4 講
11	5	木	1	脂質代謝異常	リポ蛋白代謝・分類、治療	非常勤講師 (佐世保市総合医療センター) 山崎	4 講
11	5	木	2	肥満症	成因・治療	非常勤講師 (佐世保市総合医療センター) 山崎	4 講
11	5	木	3	代謝栄養学	その他の代謝異常	原研国際 赤澤	4 講
11	6	金	1	代謝栄養学	糖代謝総論	第一内科 阿比留	4 講
11	6	金	2	代謝栄養学	糖尿病の分類と診断	糖尿病診療支援センター 鎌田	4 講
11	6	金	3	代謝栄養学	栄養学、ビタミン欠乏症	栄養管理室 高島	4 講
11	9	月	1	甲状腺	甲状腺総論	第一内科 伊藤	4 講
11	9	月	2	甲状腺	甲状腺機能亢進症	第一内科 伊藤	4 講
11	9	月	3	甲状腺	甲状腺機能低下症	第一内科 伊藤	4 講
11	10	火	4	内分泌代謝薬理 1	糖尿病治療薬	薬理学 有賀	1 講
11	10	火	5	内分泌代謝薬理 2	高脂血症・痛風治療薬	薬理学 有賀	1 講
11	10	火	6	内分泌代謝薬理 3	内分泌代謝疾患治療薬	薬理学 藤田	1 講
11	11	水	4	内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	1 講
11	11	水	5	内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	1 講
11	11	水	6	内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	1 講
11	12	木	1	甲状腺	甲状腺腫瘍	第一内科 重野	4 講
11	12	木	2	核酸代謝	痛風・高尿酸血症	糖尿病診療支援センター 鎌田	4 講
11	12	木	3	糖尿病	糖尿病の慢性合併症	保健・医療推進センター 古林	3 講
11	13	金	1	糖尿病	糖尿病治療 食事・運動療法	保健・医療推進センター 夏田	4 講
11	13	金	2	糖尿病	糖尿病治療 経口血糖降下薬	第一内科 阿比留	4 講
11	13	金	3	糖尿病	糖尿病治療 注射薬	第一内科 阿比留	4 講
11	16	月	1	乳腺・内分泌外科	甲状腺外科	移植消化器外科 森田	4 講
11	16	月	2	乳腺・内分泌外科	甲状腺外科	移植消化器外科 森田	4 講
11	17	火	4	内分泌病理	唾液腺・下垂体	病理診断科 二口	CBT室
11	17	火	5	内分泌病理	総合実習	病理診断科 二口	CBT室
11	17	火	6	内分泌病理	総合実習	病理診断科 二口	CBT室
11	19	木	1	乳腺・内分泌外科	乳腺外科	腫瘍外科 矢野	3 講
11	19	木	2	乳腺・内分泌外科	乳腺外科	腫瘍外科 矢野	3 講
11	19	木	3	糖尿病	糖尿病昏睡・急性合併症	原研国際 赤澤	3 講
11	26	木	1	糖尿病	低血糖症	原研国際 赤澤	3 講
11	26	木	2	内分泌病理	甲状腺	非常勤講師 (亀田総合病院) Andrey Bychkov	3 講
11	26	木	3	内分泌病理	甲状腺	非常勤講師 (亀田総合病院) Andrey Bychkov	3 講

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	27	金	1	TBL	糖尿病	第一内科 重野、阿比留	4 講
11	27	金	2	TBL	糖尿病	第一内科 重野、阿比留	4 講
11	30	月	1	性腺	性腺機能異常症	第一内科 堀江	3 講
11	30	月	2	その他の内分泌疾患	消化管ホルモン、多発性内分泌腺腫症、多腺性自己免疫症候群	第一内科 堀江	3 講
12	4	金	1	副腎	副腎皮質疾患	第一内科 原口	3 講
12	4	金	2	副腎	副腎髄質疾患	第一内科 原口	3 講
12	4	金	3	カルシウム代謝	高・低カルシウム血症・代謝性骨疾患	第一内科 原口	3 講
12	7	月	1	TBL	内分泌疾患	第一内科 伊藤	4 講
12	7	月	2	TBL	内分泌疾患	第一内科 伊藤	4 講
12	7	月	3	放射線・画像診断	代謝内分泌疾患の放射線・画像診断	放射線科 大木	4 講
12	7	月	4	内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	3 講
12	7	月	5	内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	3 講
12	7	月	6	内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	3 講
12	11	金	4~6	試験			4 講

# 消化器系

責任者	氏名 (教室)	中尾 一彦 (消化器内科学)		
	電話番号	095-819-7481	e-mail	kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 8:30~12:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Digestive disease		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

消化器系は口腔・唾液腺に始まり、食道・胃・小腸・結腸・直腸・肛門に至る消化管系と肝臓、胆嚢、胆管、膵臓よりなる肝胆膵系に大別される。

## 2. 授業到達目標

消化器の病理、症状、検査、内科的消化器疾患、外科的消化器疾患、手術法などを統合包括的に把握し、消化器疾患における基礎的、臨床的な基本的知識を理解、修得する。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

消化器系を消化管系と肝胆膵系に大別し、それぞれを病理学、内科学、外科学の順に講義を進行させる。

## 4. 教科書・教材・参考書

内科学書 (改訂第8版) 中山書店 31,320円

消化器内視鏡診断テキスト

第1巻: 食道・胃・十二指腸 第2巻: 小腸・大腸 文光堂 各9,180円

肝臓専門医テキスト 改訂第2版 日本肝臓病学会監修 南江堂 15,120円

消化器病診療 第2版 日本消化器病学会監修 医学書院 6,480円

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験は病理、薬理、内科、外科、放射線科がそれぞれの担当時間数に応じて配分された点数をもって出題する。各科目の総点を100点として評価を行う。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書、配付資料を参照し、予習復習を行うこと。

## 7. 教員名

中尾 一彦 (消化器内科)、竹島 史直 (消化器内科)、宮明 寿光 (消化器内科)、三馬 聡 (消化器内科)、赤澤 祐子 (消化器内科)、柴田 英貴 (消化器内科)、本田 琢也 (消化器内科)、松島 加代子 (消化器内科)、小澤 栄介 (消化器内科)、北山 素 (消化器内科)、佐々木 龍 (消化器内科)、原口 雅史 (消化器内科)、荻原久美 (消化器内科)、田 渕 真惟子 (消化器内科)、福島 真典 (消化器内科)、塩田純也 (消化器内科)、山口 直之 (光学医療診療部)、橋口 慶一 (光学医療診療部)、日高 重和 (腫瘍外科)、原貴信 (移植・消化器外科)、曾山明彦 (移植・消化器外科)、田中貴之 (移植・消化器外科)、足立 智彦 (移植・消化器外科)、伊藤信一郎 (移植・消化器外科)、井上悠介 (移植・消化器外科)、石丸 英樹 (放射線科)、松永 隼人 (医科薬理)、中島 正洋 (原研病理)、松田 勝也 (原研病理)、福岡 順也 (病理診断科・病理部)、二口 充 (病理診断科・病理部)、黒田 揮志夫 (病理診断科・病理部)、片瀬 直樹 (病理診断科・病理部 (口腔病理学))、八尾 隆史 (順天堂大学)、八橋 弘 (長崎医療センター)、伊東 正博 (長崎医療センター)

## 8. 備考

出欠チェックは1コマ毎に行う。出欠状況は成績に反映する。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	2	月	4	上部消化管総論①	構造機能	消化器内科 北山 素	3 講
11	2	月	5	消化管内視鏡	検査と治療	光学医療診療部 山口直之	3 講
11	2	月	6	食道疾患	先天異常、憩室、炎症、腫瘍	消化器内科 松島加代子	3 講
11	4	水	1	消化管ホルモン	消化管ホルモン	消化器内科 塩田純也	4 講
11	4	水	2	小腸疾患	小腸疾患、吸収不良症候群、蛋白漏出性胃腸症	消化器内科 松島加代子	4 講
11	4	水	3	上部消化管総論②	症候	消化器内科 田淵真惟子	4 講
11	4	水	4	胃十二指腸疾患①	胃十二指腸の炎症、潰瘍	光学医療診療部 橋口慶一	4 講
11	4	水	5	胃十二指腸疾患②	胃癌	光学医療診療部 橋口慶一	4 講
11	4	水	6	胃十二指腸疾患③	その他の疾患	消化器内科 北山 素	4 講
11	5	木	4	病理	消化器（各論的疾患概論）	原研病理 赤澤祐子	2 講/CBT室
11	5	木	5	病理	消化器（各論的疾患概論）	原研病理 赤澤祐子	2 講/CBT室
11	5	木	6	病理	消化器（各論的疾患概論）	原研病理 赤澤祐子	2 講/CBT室
11	6	金	4	下部消化管総論①	構造機能	消化器内科 荻原久美	4 講
11	6	金	5	下部消化管総論②	症候、機能性疾患	消化器内科 荻原久美	4 講
11	6	金	6	肝胆膵外科①	門脈・脾臓の外科	移植・消化器外科(肝胆膵班) 原貴信	4 講
11	9	月	4	肝胆膵外科②	膵疾患の外科(1)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 足立智彦	4 講
11	9	月	5	肝胆膵外科③	膵疾患の外科(2)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 足立智彦	4 講
11	9	月	6	肝胆膵外科④	胆道疾患の外科(1)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 田中貴之	4 講
11	10	火	1	肝胆膵外科⑤	胆道疾患の外科(2)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 田中貴之	4 講
11	10	火	2	肝胆膵外科⑥	肝疾患の外科(1)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 曾山明彦	4 講
11	10	火	3	肝胆膵外科⑦	肝疾患の外科(2)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 曾山明彦	4 講
11	11	水	1	大腸炎症①	炎症性腸疾患	消化器内科 松島加代子	4 講
11	11	水	2	大腸炎症②	感染性腸炎	消化器内科 塩田純也	4 講
11	11	水	3	全身性疾患と消化管	膠原病、アミロイドーシス、血液疾患など	光学医療診療部 橋口慶一	4 講
11	12	木	5	病理	食道・胃・腸	病理診断科・病理部 黒田揮志夫	4 講/CBT室
11	12	木	6	病理	食道・胃・腸	病理診断科・病理部 黒田揮志夫	4 講/CBT室
11	13	金	4	大腸腫瘍①	ポリープ、ポリポーシスなど	光学医療診療部 山口直之	4 講
11	13	金	5	大腸腫瘍②	大腸癌	光学医療診療部 山口直之	4 講
11	13	金	6	大腸腫瘍③	その他の疾患	消化器内科 北山素	4 講
11	16	月	4	胆膵疾患①	主要症候	消化器内科 小澤栄介	4 講
11	16	月	5	胆膵疾患②	検査と治療	消化器内科 小澤栄介	4 講
11	16	月	6	胆膵疾患③	悪性腫瘍	消化器内科 小澤栄介	4 講
11	17	火	1	化学療法①	消化管癌の化学療法	消化器内科 本田琢也	4 講
11	17	火	2	化学療法②	胆膵癌の化学療法	消化器内科 本田琢也	4 講
11	17	火	3	肝臓の腫瘍①	胆管細胞癌	消化器内科 佐々木龍	4 講
11	18	水	1	肝臓総論①	正常組織・生理機能	消化器内科 中尾一彦	3 講
11	18	水	2	肝臓総論②	病態生理, 先天異常	消化器内科 中尾一彦	3 講
11	18	水	3	代謝性疾患①	NASH, ASH	消化器内科 宮明寿光	3 講
11	18	水	5	病理	消化器・口腔(講義・実習)	病理診断科・病理部(口腔病理学) 片瀬直樹	2 講/CBT室
11	18	水	6	病理	消化器・口腔(講義・実習)	病理診断科・病理部(口腔病理学) 片瀬直樹	2 講/CBT室
11	19	木	5	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2 講/CBT室
11	19	木	6	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2 講/CBT室
11	24	火	1	肝臓の腫瘍②	肝臓細胞癌	消化器内科 福島真典	3 講
11	24	火	2	肝臓の腫瘍③	その他の腫瘍	消化器内科 佐々木龍	3 講
11	24	火	3	放科	肝・胆・膵の画像診断	放射線科 石丸英樹	3 講

消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	24	火	4	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
11	24	火	5	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
11	24	火	6	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
11	25	水	1	胆膵疾患⑤	胆道系、膵臓の炎症、その他の疾患	消化器内科 福島真典	3講
11	25	水	2	代謝性疾患②	薬剤性肝障害など	消化器内科 宮明寿光	3講
11	25	水	3	自己免疫疾患	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎	消化器内科 原口雅史	3講
11	25	水	4	病理	消化器・臨床と病理(肝胆)	伊東先生(長崎医療センター)	2講/CBT室
11	25	水	5	病理	消化器・臨床と病理(肝胆)	伊東先生(長崎医療センター)	2講/CBT室
11	25	水	6	病理	細胞診(非婦人科領域)	原研病理 松田勝也	2講/CBT室
11	26	木	4	病理	消化器(各論的疾患概論)	原研病理 赤澤祐子	2講/CBT室
11	26	木	5	病理	消化器(各論的疾患概論)	原研病理 赤澤祐子	2講/CBT室
11	26	木	6	病理	消化器(各論的疾患概論)	原研病理 赤澤祐子	2講/CBT室
11	27	金	4	自己免疫疾患	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎	消化器内科 原口雅史	3講
11	27	金	5	肝硬変	肝硬変、静脈瘤	消化器内科 三馬聡	3講
11	27	金	6	肝不全	肝不全、非硬変性門亢症	消化器内科 三馬聡	3講
11	30	月	4	特別講義	肝炎①	長崎医療センター 八橋弘	3講
11	30	月	5	特別講義	肝炎②	長崎医療センター 八橋弘	3講
11	30	月	6	特別講義	肝炎③	長崎医療センター 八橋弘	3講
12	1	火	1	消化管外科④	小腸・大腸1	移植・消化器外科(大腸班) 井上悠介	3講
12	1	火	2	消化管外科⑤	小腸・大腸2	移植・消化器外科(大腸班) 井上悠介	3講
12	1	火	3	消化管外科⑥	腹壁・肛門の疾患	移植・消化器外科(大腸班) 伊藤信一郎	3講
12	1	火	5	病理	食道・胃・腸	病理診断科・病理部 黒田揮志夫	2講/CBT室
12	1	火	6	病理	食道・胃・腸	病理診断科・病理部 黒田揮志夫	2講/CBT室
12	2	水	1	消化管外科①	食道・胃・十二指腸①	腫瘍外科 日高重和	3講
12	2	水	2	消化管外科②	食道・胃・十二指腸②	腫瘍外科 日高重和	3講
12	2	水	3	消化管外科③	食道・胃・十二指腸③	腫瘍外科 日高重和	3講
12	2	水	4	病理	食道・胃・腸	病理診断科・病理部 福岡 順也	2講/CBT室
12	2	水	5	病理	食道・胃・腸	病理診断科・病理部 福岡 順也	2講/CBT室
12	2	水	6	病理	食道・胃・腸	病理診断科・病理部 福岡 順也	2講/CBT室
12	3	木	1	TBL		消化器内科 佐々木龍、原口雅史、福島真典	4講
12	3	木	2	TBL		消化器内科 佐々木龍、原口雅史、福島真典	4講
12	3	木	3	TBL		消化器内科 佐々木龍、原口雅史、福島真典	4講
12	3	木	4	(薬理)消化器系に作用	潰瘍治療薬、腸疾患治療薬、肝疾患治療薬など	医科薬理学、松永隼人	2講
12	3	木	5	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
12	3	木	6	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
12	4	金	4	消化管外科⑦	概念と疾患群	移植・消化器外科(大腸班) 伊藤信一郎	3講
12	4	金	5	病理	胃	八尾 隆史(順天堂大学)	3講
12	4	金	6	病理	胃	八尾 隆史(順天堂大学)	3講
12	8	火	1	TBL		消化器内科 橋口慶一、北山素、荻原久美、田淵真椎子、塩田純也	4講
12	8	火	2	TBL		消化器内科 橋口慶一、北山素、荻原久美、田淵真椎子、塩田純也	4講
12	8	火	3	TBL		消化器内科 橋口慶一、北山素、荻原久美、田淵真椎子、塩田純也	4講
12	8	火	4	病理	肝・胆・膵	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
12	8	火	5	病理	細胞診・消化器/体腔(講義・実習)	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
12	8	火	6	病理	細胞診・消化器/体腔(講義・実習)	病理診断科・病理部 二口 充	2講/CBT室
12	10	木	1~3	試験			4講

# 運動系

責任者	氏名（教室）	尾崎 誠（整形外科（構造病態整形外科））		
	電話番号	095-819-7321	e-mail	mosaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Musculo-skeletal system, lecture		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

四肢、脊椎、顔面等の運動器では、炎症、変性、腫瘍、外傷、先天異常、代謝疾患、血行障害など数多くの疾患が生じる可能性を含んでいる。これらの疾患を理解するためには、骨・関節系統のみならず神経・筋系統の広範な領域にわたる正常の機能を把握する必要がある。これらの疾患の治療目的は、生命の維持と疾患の予防ならびに機能確保・機能再建である。

## 2. 授業到達目標

運動器疾患の基礎となる骨・関節・筋・神経の生理・代謝・構造を理解する。種々の検査法を含めた診断学、さらに治療学の概略ならびに各部位別の疾患とその治療法を理解する。急性疾患における適切な救急処置を理解する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

主にプリントとスライドによる講義である。

## 4. 教科書・教材・参考書

標準整形外科学 中村 利孝・内田 淳正ほか 医学書院 9,870円

整形外科サブノート 東 博彦 ほか 南江堂 5,460円

標準形成外科学 第7版 平林慎一監修 鈴木茂彦・岡崎 睦編集 医学書院 6,260円

TEXT形成外科学 第3版 波利井清紀監修 中塚貴志・亀井 譲編集 南山堂 6,480円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験（出題範囲は講義内容と上記教科書）。

評価には出席日数を考慮する。

本論、放射線、病理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

再試験は原則として1回のみ行う。

## 6. 事前・事後学修の内容

解剖学、生理学、生化学等の基礎的知識を整理しておくこと。

## 7. 教員名

尾崎 誠（整形外科）、宮本 俊之（整形外科）、田口 憲士（整形外科）、梶山 史郎（整形外科）、松林 昌平（整形外科）、野村 賢太郎（整形外科）、辻本 律（整形外科）、岡崎 成弘（整形外科）、千葉 恒（整形外科）、津田 圭一（整形外科）、山田 周太（整形外科）、米倉 暁彦（整形外科）、木寺 健一（整形外科）、小林 恭介（整形外科）、富田 雅人（整形外科）、中添 悠介（整形外科）、田中 克己（形成外科）、今村 禎伸（形成外科）、小関 弘展（保健学科）、上谷 雅孝（放射線科）、二口 充（病理診断科・病理部）、小田 義直（九州大学）、岩尾 敦彦（形成外科）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

# 運動系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	23	水	1	運動系総論(1)	総論・歴史	整形外科・尾崎 誠	3 講
9	23	水	2	骨・関節の外傷(1)	外傷総論	外傷センター・宮本俊之	3 講
9	23	水	3	骨・関節の外傷(2)	外傷各論 (高齢者外傷)	外傷センター・宮本俊之	3 講
9	25	金	4	骨・関節の外傷(3)	外傷各論 (小児外傷)	外傷センター・宮本俊之	3 講
9	25	金	5	リハビリテーション(1)	リハビリテーション (総論)	保健学科・小関弘展	3 講
9	25	金	6	運動系総論(2)	診断学・治療学	整形外科・辻本 律	3 講
9	28	月	4	運動系総論(3)	骨・軟骨の構造と生理	整形外科・野村賢太郎	3 講
9	28	月	5	腫瘍性疾患(1)	腫瘍各論(1) 悪性骨軟部腫瘍(1)	整形外科・野村賢太郎	3 講
9	28	月	6	腫瘍性疾患(2)	腫瘍各論(2) 悪性骨軟部腫瘍(2)	整形外科・野村賢太郎	3 講
9	30	水	1	脊椎(1)	脊椎(1)	整形外科・山田周太	3 講
9	30	水	2	脊椎(2)	脊椎(2)	整形外科・山田周太	3 講
9	30	水	3	放射	骨・関節の画像診断(1)	放射線科・上谷雅孝	3 講
9	30	水	4	病理	運動系病理	病理診断科・二口 充	3 講/CBT室
9	30	水	5	病理	運動系病理	小田義直 (九州大学)	3 講/CBT室
9	30	水	6	病理	運動系病理	小田義直 (九州大学)	3 講/CBT室
10	2	金	4	腫瘍性疾患(3)	骨軟部腫瘍総論	整形外科・富田雅人	4 講
10	2	金	5	腫瘍性疾患(4)	腫瘍各論(3) 良性骨軟部腫瘍	整形外科・富田雅人	4 講
10	2	金	6	骨・関節の外傷(4)	外傷各論 (成人外傷)	外傷センター・田口憲士	4 講
10	5	月	4	脊椎(3)	脊椎(3)	整形外科・津田圭一	3 講
10	5	月	5	脊椎(4)	脊椎(4)	整形外科・津田圭一	3 講
10	5	月	6	脊椎(5)	脊椎(5)	整形外科・津田圭一	3 講
10	7	水	1	下肢の疾患(1)	股関節(1) (小児)	整形外科・松林昌平	3 講
10	7	水	2	リハビリテーション(2)	リハビリテーション (各論1)	整形外科・松林昌平	3 講
10	7	水	3	リハビリテーション(3)	リハビリテーション (各論2)	整形外科・松林昌平	3 講
10	7	水	4	放射	骨・関節の画像診断(2)	放射線科・上谷雅孝	3 講
10	12	月	4	下肢の疾患(2)	股関節(2)	整形外科・木寺健一	3 講
10	12	月	5	上肢の疾患(1)	上肢(1)	整形外科・辻本 律	3 講
10	12	月	6	顔面外傷	顔面外傷総論：軟部組織損傷・顔面骨骨折	形成外科・今村禎伸	3 講
10	14	水	1	手の外傷	手の機能解剖と診断・治療	形成外科・田中克己	3 講
10	14	水	2	再建外科	四肢組織欠損に対する機能・整容再建	形成外科・外傷センター 岩尾敦彦	3 講
10	14	水	3	下肢の疾患(3)	股関節(3)	整形外科・小林恭介	3 講
10	16	金	4	下肢の疾患(4)	膝関節(1)	整形外科・米倉暁彦	3 講
10	16	金	5	下肢の疾患(5)	膝関節(2)・足関節・足趾	整形外科・米倉暁彦	3 講
10	16	金	6	炎症性疾患(1)	骨・関節の感染症	整形外科・岡崎成弘	3 講
10	19	月	4	炎症性疾患(2)	関節リウマチ・リウマチ類似疾患	整形外科・千葉 恒	3 講

## 運動系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	19	月	5	上肢の疾患(2)	上肢の疾患(2)	整形外科・梶山史郎	3講
10	19	月	6	上肢の疾患(3)	上肢の疾患(3)	整形外科・梶山史郎	3講
10	21	水	1	TBL		整形外科・中添悠介	4講
10	21	水	2	TBL		整形外科・佐田 潔	4講
10	21	水	3	TBL		整形外科・山田周太	4講
10	29	木	1~3	試験			4講

# 生殖系

責任者	氏名（教室）	三浦清徳（産科婦人科学）		
	電話番号	095-819-7363	e-mail	kiyonori@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～17:30		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Reproductive Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

男女の生殖器の解剖、生理および病理について系統的に学習する。正常および異常妊娠、分娩について系統的に学習する。授業内容は講義形式を用いる。

## 2. 授業到達目標

女性生殖器、男性生殖器の解剖、発生およびその異常について説明できる。男性不妊症や主な男性生殖器疾患について説明できる。女性の性周期、妊娠成立の仕組み、不妊症および不育症について説明できる。正常妊娠、胎児、分娩の経過およびその異常としてのハイリスク妊娠、分娩について説明できる。もな女性生殖器疾患について説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

講義時間は56コマである。内訳は第三解剖1コマ、病理5コマ、泌尿器科4コマ、産婦人科46コマである。

## 4. 教科書・教材・参考書

ムーア人体発生学 Moore, Persaud 医歯薬出版 9,500円  
 新泌尿器科学 内藤 誠二 南山堂 8,700円  
 標準産科婦人科学 岡井 崇 他編 医学書院 8,610円  
 病気が見える 産科 メディックメディア 3,600円  
 病気が見える 婦人科・乳腺外科 メディックメディア 3,300円

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席点および筆記試験により評価する。筆記試験問題は担当教員が分担して作成する。原則として60%以上の得点をもって合格とする。  
 本論、病理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書、参考書を読み、予習復習を行うこと

## 7. 教員名

三浦清徳（長崎大学産婦人科）、北島道夫（長崎大学産婦人科）、三浦生子（長崎大学産婦人科）、嶋田貴子（長崎大学産婦人科）、長谷川ゆり（長崎大学産婦人科）、北島百合子（長崎大学産婦人科）、森崎佐知子（長崎大学産婦人科）、松本加奈子（長崎大学産婦人科）、原田亜由美（長崎大学産婦人科）、朝永千春（長崎大学産婦人科）、梶村慈（長崎大学産婦人科）、重富典子（長崎大学産婦人科）、吉村泰典（非常勤講師）、檜原久司（非常勤講師）、片淵秀隆（非常勤講師）、村上誠（非常勤講師）、中島久良（非常勤講師）、藤下晃（非常勤講師）、小寺宏平（非常勤講師）、中山大介（非常勤講師）、吉田敦（非常勤講師）、酒井英樹（長崎大学泌尿器科）、宮田康好（長崎大学泌尿器科）、小路武彦（長崎大学組織生物学）、二口充（長崎大学病理診断科）、松田勝也（長崎大学原研病理）、三上芳喜（非常勤講師）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	23	水	4	病理	生殖系・子宮頸部（講義・実習）	二口	3講
9	23	水	5	病理	生殖系・子宮頸部（講義・実習）	二口	3講
9	23	水	6	病理	細胞診	松田	3講
9	24	木	1	女性ホルモン・月経	女性ホルモンの種類と作用／月経周期の調節機構	非常勤・檜原	3講
9	24	木	2	イントロダクション	生殖系講義概論	産婦人科・三浦清	3講
9	29	火	1	性分化と性器の発生	性線・性器の発生／性分化異常	解剖3・小路	3講
9	29	火	2	不妊（1）	性分化異常／男性不妊症	泌尿器科・宮田	3講
9	29	火	4	男性生殖器（1）	前立腺肥大症	泌尿器科・酒井	3講
9	29	火	5	男性生殖器（2）	前立腺癌	泌尿器科・酒井	3講
9	29	火	6	男性生殖器（3）	精巣腫瘍／陰茎腫瘍	泌尿器科・酒井	3講
10	1	木	1	婦人科診察	女性性器の構造／婦人科診察	非常勤・藤下	3講
10	1	木	2	性器の位置異常	性器形態異常／位置異常／損傷と瘻	非常勤・藤下	3講
10	1	木	4	不妊（2）	不妊症／ART／OHSS／不育症	産婦人科・北島道	3講
10	1	木	5	性分化異常と無月経	精巣性女性化症候群／Turner症候群など。無月経／PMS／神経性食欲不振症	産婦人科・北島百	3講
10	1	木	6	加齢に伴う変化	加齢にともなう性機能の変化／POF／更年期障害／老年期／萎縮性陰炎／尿失禁／骨盤内臓器脱	産婦人科・北島百	3講
10	6	火	1	医療倫理	生殖医療と生命倫理	非常勤・吉村	3講
10	6	火	2	性器の炎症	STI／外陰膺の炎症／子宮の炎症／付属器炎骨盤炎	産婦人科・北島百	3講
10	6	火	4	付属器腫瘍（1）	卵巣腫瘍	非常勤・小寺	3講
10	6	火	5	付属器腫瘍（2）	卵巣癌／卵管癌	産婦人科・嶋田	3講
10	6	火	6	婦人科類腫瘍病変	子宮内膜症／子宮腺筋症／子宮筋腫／月経困難症	産婦人科・原田	3講
10	7	水	5	病理	生殖系・子宮頸部（講義・実習）	三上 芳喜（熊本大学）	3講
10	7	水	6	病理	生殖系・子宮頸部（講義・実習）	三上 芳喜（熊本大学）	3講
10	8	木	1	婦人科腫瘍の病因学	ノーベル生理医学賞と子宮頸癌予防HPVワクチン	非常勤・片淵	3講
10	8	木	2	外陰・膺の疾患	外陰癌／膺癌	非常勤・村上誠	3講
10	8	木	4	産婦人科の手術解剖	ロボット手術／広汎子宮全摘術／帝王切開術	産婦人科・三浦清	3講
10	8	木	5	子宮の疾患（2）	子宮頸部異形成	非常勤・中島	3講
10	8	木	6	子宮の疾患（3）	子宮頸癌	非常勤・中島	3講
10	13	火	1	子宮の疾患（1）	子宮内膜増殖症／子宮体癌	産婦人科・嶋田	3講
10	13	火	2	絨毛性疾患	絨毛性疾患／絨毛癌／胞状奇胎	産婦人科・長谷川	3講
10	13	火	4	妊娠の生理（1）	妊娠の成立／配偶子／受精／着床／初期の分化／妊娠維持機構	産婦人科・北島道	3講

生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	13	火	5	妊娠の生理(2)	胎芽-胎児期の成長/胎児-胎盤系の生理/産褥の生理	産婦人科・三浦生	3講
10	13	火	6	妊娠の生理(3)	妊娠に伴う母体変化/母体の生理学的変化	産婦人科・三浦生	3講
10	14	水	4	妊娠中の胎児評価(1)	妊婦の栄養管理/母体と胎児の管理 妊婦健診の流れ/超音波検査	産婦人科・原田	3講
10	14	水	5	妊娠中の胎児評価(2)	胎児心拍モニタリング/BPS	産婦人科・原田	3講
10	14	水	6	妊娠・授乳と薬剤	妊娠と薬剤/産褥と薬剤	産婦人科・松本	3講
10	15	木	1	妊娠の異常(1)	妊娠悪阻/流産/異所性妊娠	非常勤・藤下	3講
10	15	木	2	ゲノム医療	着床前診断/出生前診断/がんゲノム	産婦人科・三浦生	3講
10	15	木	4	妊娠の異常(3)	常位胎盤早期剥離/前置胎盤/癒着胎盤	産婦人科・松本	3講
10	15	木	5	妊娠の異常(4)	胎児発育不全/羊水異常	産婦人科・重富	3講
10	15	木	6	妊娠の異常(5)	多胎妊娠/血液型不適合妊娠	産婦人科・梶村	3講
10	20	火	1	妊娠の異常(6)	早産/切迫早産/絨毛膜羊膜炎/頸管無力症/前期破水	産婦人科・長谷川	3講
10	20	火	2	妊娠の異常(7)	母子感染症*「病気が見える」持参のこと!	非常勤・中山	3講
10	20	火	4	合併症妊娠(1)	婦人科疾患/糖代謝異常合併妊娠	産婦人科・森崎	3講
10	20	火	5	合併症妊娠(2)	代謝・内分泌疾患/膠原病/血液疾患 腎・泌尿器疾患/消化器疾患/呼吸器・循環器疾患/神経疾患	産婦人科・森崎	3講
10	20	火	6	正常分娩	分娩の流れ/分娩の3要素/正常分娩の経過/回旋/分娩の評価	産婦人科・松本	3講
10	21	水	4	分娩の異常(1)	分娩機転の異常/陣痛の異常/産道の異常/胎勢・回旋・胎位の異常/進入の異常	産婦人科・朝永	3講
10	21	水	5	分娩の異常(2)	臍帯の異常/胎児機能不全/過期産	産婦人科・森崎	3講
10	21	水	6	分娩の異常(3)	分娩時大量出血/産科ショック	産婦人科・長谷川	3講
10	22	木	1	分娩の異常(4)	産科DIC/弛緩出血/羊水塞栓症/分娩時の裂傷	産婦人科・朝永	3講
10	22	木	2	分娩の異常(5)	分娩介助/子宮内容除去術/陣痛誘発・陣痛抑制/急速遂娩	産婦人科・重富	3講
10	22	木	4	妊娠の異常(2)	妊娠高血圧症候群/子癇/HELLP症候群	非常勤・吉田	4講
10	22	木	5	産褥の異常	産褥の異常/子宮復古不全/産褥熱/深部静脈血栓症/肺血栓塞栓症	産婦人科・梶村	4講
10	22	木	6	TBL (1)	周産期	産婦人科・朝永	4講
10	26	月	1	TBL (2)	腫瘍	産婦人科・嶋田	4講
10	26	月	2	TBL (3)	生殖内分泌	産婦人科・北島道	4講
10	30	金	4~6	試験			4講

# 放射線医学

責任者	氏名（教室）	上谷 雅孝（放射線医学（放射線診断治療学））		
	電話番号	095-819-7353	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Radiology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

放射線医学は、放射線診断学、核医学および放射線治療学から成り立っている。本講義では各臓器疾患に共通する内容として、核医学検査と放射線治療、放射線学的手技を応用した治療（interventional radiology）について学習する。各臓器毎の放射線診断（画像診断）については、それぞれの臓器別の講義で行われる。

## 2. 授業到達目標

- 1 核医学検査の種類と基本的原理、検査の特徴と適応、診断の要点を理解する。
- 2 放射線治療の種類と基本的原理、特徴と適応、副作用について理解する。
- 3 IVRの種類、手技の実際、適応について理解する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

核医学検査 2コマ、放射線診断 2コマ、IVR 1コマ

## 4. 教科書・教材・参考書

標準放射線医学（第7版） 西谷 弘 他編 医学書院 10,500円

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験にて60%以上の得点率にて合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

画像診断や放射線治療の理解は、各疾患の病態生理・病理学等の理解が基本となる。これまで学習してきた各臓器・領域の主な疾患について復習しておくこと。

## 7. 教員名

工藤 崇（原研放射）、山崎 拓也（放射線科）、江川 亜希子（放射線科）、末吉 英純（放射線科）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D

## 放射線医学

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	9	木	1	オンライン	別途通知	別途通知	
4	9	木	2	オンライン	別途通知	別途通知	
4	9	木	4	オンライン	別途通知	別途通知	
4	9	木	5	オンライン	別途通知	別途通知	
4	9	木	6	オンライン	別途通知	別途通知	
4	13	月	4~6	試験			

# 臨床検査医学

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Laboratory Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

患者の病態を把握するために必要な検査が何かを学び、それぞれの検査の特徴を知った上で、それらを適切に使い分け、かつ適切に結果を解釈する思考を構築する。検査値から鑑別を広く挙げ、病態を深く読む視点を養う。

## 2. 授業到達目標

臨床検査の意義とその解釈を説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

正しい臨床診断を得るためには、検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。病院の中核部門の1つである検査部や輸血部で行われている検査について理解を深める。各種検査についての基本的知識や解釈、原理、異常値が出る病態生理学的機序を理解する授業を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

臨床検査ガイド 文光堂

標準臨床検査医学 医学書院

臨床検査法提要 金原出版

よくわかる輸血学・改訂版 大久保 光夫 羊土社

移植・輸血検査学 講談社

血液細胞アトラス 文光堂

Handbook of Hematologic Pathology Marcel Dekker Inc, USA

Molecular Diagnostics Methods and Clinical Applications Lela Buckingham F.A.Davis

戸田新細菌学 吉田眞一、柳雄介、吉開泰信 南山堂

標準臨床検査学「微生物学・臨床微生物学・医動物学」 一山智、田中美智男 医学書院

医療スタッフのための 微生物検査のススメ 柳原克紀 ヴァンメディカル

## 5. 成績評価の方法・基準等

成績評価の方法：定期考査100%。成績評価の基準：60点以上を合格とする。特別な理由なく講義に1/3以上欠席した場合は、定期考査の受験資格はない。再試験有り（1回）

## 6. 事前・事後学修の内容

授業の前に参考書で予習をしておくこと。

## 7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）、長井 一浩（細胞療法部）、長谷川 寛雄（臨床検査医学）、宇野 直輝（臨床検査医学）、賀来 敬仁（臨床検査医学）、坂本 啓（臨床検査医学）、小佐井康介（臨床検査医学）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

# 臨床検査医学

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	25	金	1	臨床検査総論	臨床検査総論	柳原克紀	3講
9	25	金	2	臨床検査総論	臨床検査総論	柳原克紀	3講
9	25	金	3	一般検査	一般検査	長谷川寛雄	3講
9	28	月	1	血液学検査	血液学検査	長谷川寛雄	3講
9	28	月	2	血液学検査	血液学検査	長谷川寛雄	3講
9	28	月	3	臨床検査総論	臨床検査総論	柳原克紀	3講
10	5	月	1	臨床化学総論	臨床化学総論	宇野直輝	3講
10	5	月	2	臨床化学各論	臨床化学各論	坂本啓	3講
10	5	月	3	臨床化学各論	臨床化学各論	坂本啓	3講
10	12	月	1	微生物検査	微生物検査	富山大学 森永芳智	3講
10	12	月	2	微生物検査	微生物検査	小佐井康介	3講
10	12	月	3	微生物検査	微生物検査	小佐井康介	3講
10	16	金	1	輸血検査	輸血検査	長井一浩	3講
10	16	金	2	輸血検査	輸血検査	長井一浩	3講
10	16	金	3	輸血検査	輸血検査	長井一浩	3講
10	19	月	1	免疫血清検査	免疫血清検査	宇野直輝	3講
10	19	月	2	遺伝子検査総論	遺伝子検査総論	宇野直輝	3講
10	19	月	3	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	宇野直輝	3講
10	26	月	4	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	長谷川寛雄	3講
10	26	月	5	生理機能検査	生理機能検査	坂本啓	3講
10	26	月	6	検査の実際	検査の実際	柳原克紀	3講
10	27	火	4~6	試験			4講

# プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（グローバルヘルス研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1 年次前期：各教室による研究内容等の紹介セミナーを受講する。
- 1 年次後期、2 年次、3 年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

- 1 年次前期：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。
- 1 年次後期～3 年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

## 7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

## 8. 備考

配属教室は、1年次前期終了時に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。  
また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

# リサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	池田裕明（腫瘍医学）		
	電話番号	095-819-7081	e-mail	hiked@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00-17:00		

対象年次・学期	3年次・後期 4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	11.5
科目英語名	Research Seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

有能な医師になる為には、基礎研究を理解し実施する能力、理論的かつ批判的に考察する能力が必須である。医学はまだ発展途上にあり、有能な医師は、その発展の一端を担える能力、研究成果の是非を判断する能力を習得しなければならない。現在、専門医の重要性が強調される裏側で、研究に対する意識が薄らぐ傾向にあると言えるが、リサーチセミナーでは、研究の実践を通じて「医学」が「科学」としていかに発展するかというプロセスを学ぶ。

## 2. 授業到達目標

セミナー期間中は、熱帯医学研究所・原爆後障害医療研究所を含む基礎系教室で終日研究活動に従事し、配属先の基礎医学系教員とマンツーマンの指導を受け、研究背景を学術論文から理解し、研究計画書を作成して実践し、研究結果をまとめ、発表および討論を行う能力を身につけることを目標とする。なお合同発表会は、可能な限り一般公開する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

3年次後期（1～2月）、各配属教室において研究実習を行い、報告書を提出する。  
4年次前期（5月）、リサーチセミナー発表会において、研究内容の発表を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

研究報告書・担当教員の評価・発表会の評価から総合的に評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

毎回の予習復習課題として文献資料を読むこと。

## 7. 教員名

池田裕明（腫瘍医学）

## 8. 備考

### 【研究テーマの選択方法】

- 各教室から研究テーマ、そのテーマを指導する責任教員名とそのテーマに従事する学生数が公示される。
- 各学生は希望する教室とテーマを1つ選択して提出する。
- この時点で学生自身がテーマを提案してもよい。その場合にはそのテーマについて指導す

ることを承諾する講座を必要とする。

4. 各研究テーマの定員を超過した場合には、学生間の抽選により決定する。
5. 抽選にもれた学生は、定員に満たないテーマの中から、テーマを1つ選択して提出する。
6. 全学生が何れかのテーマに属するまで上記4. と5. の操作を繰り返す。

**【リサーチセミナー履修の認定の条件】**

1. セミナー開始時にオリエンテーション（総合オリエンテーション、実験動物についての講義）、必要な動物実験施設やアイソトープ実験施設の使用に関する説明会に出席していること。
2. 研究活動に200時間以上を従事していること。
3. 研究報告書（A4のフォーマットを準備）を学務課へ提出すること。（※切：3月1日）  
（ワープロまたはボールペン書きのものに限る。鉛筆書きは不可）
4. 実際の研究記録は配属教室の指導責任者に提出すること。配属教室ではリサーチセミナー終了時に発表会を開き、研究記録とともに評価をしてもらう。指導教員はこの評価をリサーチセミナー責任者に提出する。（※切：3月1日）
5. 4年次の5月に開催される「リサーチセミナー発表会」に出席し、発表・討論を行うこと。

**9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応**

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E

# 医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次：前期・後期、 3～4年次：後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1
科目英語名	Small group medical seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教員と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。

## 2. 授業到達目標

各担当教員による。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員による。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

## 7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

## 8. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

- 2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

# 医学英語Ⅲ

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13:00-17:00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical English III		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

器官別のMedical Terminologyを医学英単語の構造から学び、医学英語Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで全器官を網羅します。また、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を学習します。

### 【Medical Terminology】

・医学英単語の成り立ち ・図解と名称 ・発音聴き取り ・日常語への置き換え 他

### 【医学英語論文】

・医学英文法 ・論文の種類と構成 ・疾病の基本知識 ・研究成果の読み取り ・要約 他

## 2. 授業到達目標

医学英単語の語彙力を身に付けるとともに、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を修得することを目標とします。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

対面授業8回、web学習7回の全15回で行います。

## 4. 教科書・教材・参考書

eラーニング教材を用います。詳細は初回授業時に説明します。

## 5. 成績評価の方法・基準等

授業への参加状況、eラーニングの受講状況、終了テストの結果を総合的に判断します。なお、大学全体で受験するTOEIC IPテストのスコアを成績評価の一部に用います。

## 6. 事前・事後学修の内容

eラーニングの受講は計画的に行うこと。

## 7. 教員名

トッド・サンダース（感染分子解析学）

## 8. 備考

特になし

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F

医学英語Ⅲ

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	23	水	7	ガイダンス			3講/2講
				Web1 Med. Terminology (5) Unit11-神経系	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・日常語と専門用語 ・正解選択	—	自宅学習
10	7	水	7	対面授業1		トッド	3講/2講
				Web2 医学英語 論文(3-1) (Review Article)	子供の肥満、有病率と予防	—	自宅学習
10	14	水	7	対面授業2		トッド	3講
				Web3 医学英語 論文(3-2) (Review Article)	子供の肥満、有病率と予防	—	自宅学習
10	21	水	7	対面授業3		トッド	3講
				Web4 Med. Terminology (6) Unit1-血液 /Unit-3リンパ系	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・正解選択	—	自宅学習
11	4	水	7	対面授業4		トッド	4講
				Web5 医学英語 論文(4-1) (Original Article-1)	Swedish snusによる二重盲検によるプラセボを使った減煙・禁煙のためのランダム化比較臨床試験	—	自宅学習
11	11	水	7	対面授業5		トッド	1講
				Web6 医学英語 論文(4-2) (Original Article-1)	Swedish snusによる二重盲検によるプラセボを使った減煙・禁煙のためのランダム化比較臨床試験	—	自宅学習
11	18	水	7	対面授業6		トッド	2講
				Web7 Med. Terminology (7) Unit6-泌尿器系 /Unit7-生殖器 (男性)/Unit8-生殖器 (女性)	・図解と名称 ・医学用語の定義 ・正解選択	—	自宅学習
12	2	水	7	対面授業7		トッド	2講
				試験	終了テスト(web)	—	